延岡市文化財調査報告書　第19集

平成９年度　市内遺跡発掘調査に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

Iijima
飯島遺跡（第２次）

Hamanoyama
浜ノ山遺跡

Hinodemachi
日の出町遺跡

Kashiyama
樫山遺跡

Nobeokajo
延岡城第15次(林友寮)

Takeshita
竹下遺跡

Matsuojo
松尾城跡(第１次)

Hinobori
肥登遺跡(第２次)

Nobeokajo
延岡城第14次(牧水広場)

Kamitatara
上多々良遺跡

市指定史跡 延岡城跡

1998.3

延 岡 市 教 育 委 員 会

序　　文

現在、延岡市は人口約12万７千人の宮崎県北の中核都市として、県内随一、東九州地域においても有数の工業集積地となっています。一方では豊かな自然や歴史・文化等を併せ持ち、これらが調和した都市です。近年は産業の停滞・人口の減少が市の抱える大きな課題となっています。

しかし、平成６年の地方拠点都市指定を契機に、延岡市を中心とした県北地域は大きく変化しつつあります。県北振興の大きなネックとなっていた道路問題も、国道10号延岡道路の着手、東九州自動車道西都～延岡間の整備路線格上げ、さらに昨年末の西都～都農間の施工命令と着実に進展しています。念願だった４年制大学も、平成11年開学に向けて前進しています。

こうした地域振興を背景に、本市は昨年「第４次長期総合計画」を策定しました。この計画は、今以上に個性的で豊かな延岡の再生と創造ーリフレッシュのべおかーを、これからのまちづくりの基本的方向としながら、将来の都市像として「共に輝き創る交流拠点都市ーのべおかー」を掲げ、「交流ネットワーク都市」の実現など６つの基本目標を設定しています。

このように、まちづくりへの機運が高まるとともに、大規模な公共事業や民間開発が増加しています。市教育委員会では、開発事業に際して埋蔵文化財の確認調査等を実施しており、本書はその報告書であります。

本書が埋蔵文化財への理解を深める一助になることを願うとともに、研究資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査にあたり県文化課をはじめ地権者の方々などの御協力を得ました。記して感謝いたします。

平成10年３月31日

延岡市教育委員会

教育長　牧　野　哲　久

例　　言

1．　本書は、延岡市教育委員会が国・県補助を受けて、平成９年度に実施した市内遺跡発掘調査報告書である。
2．　本年度は、竹下遺跡、浜ノ山遺跡、松尾城跡（第１次）、日の出町遺跡、肥登遺跡（第２次）、樫山遺跡、延岡城第14次（牧水広場）、延岡城第15次（林友寮）、上多々良遺跡の発掘調査を実施した。
3．　本書に使用した遺構・遺物の実測、トレース、図面作製については、山田　聡、尾方農一、高浦　哲、甲斐千恵美、甲斐智子、敷石サヨ子、野脇信子、船石涼代、山本敬子があたった。
4．　現場での写真撮影は各担当者があたり、遺物の写真撮影は尾方、高浦があたった。
5．　上多々良遺跡の自然化学分析は、㈱古環境研究所に依頼した。
6．　方位は磁北を向いている。また本書に使用したレベルは、すべて海抜高である。
7．　出土遺物は内藤記念館で保管しており、今後展示公開の予定である。

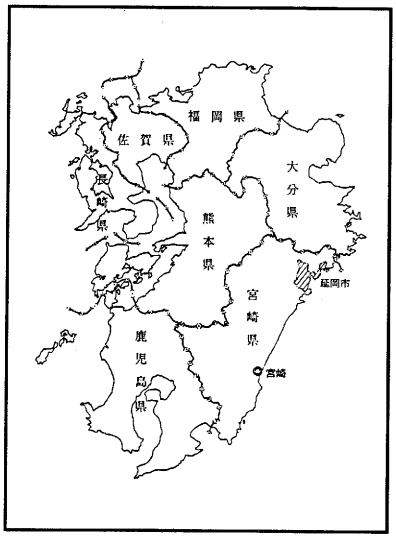


Fig.1 延岡市位置図

本文目次

第Ⅰ章　はじめに
1．はじめに ……1
第Ⅱ章　調査の記録
1．飯島遺跡（第２次） ……3
2．調査の記録 ……3
3．浜ノ山遺跡 ……5
4．日の出町遺跡 ……6
5．松尾城跡（第１次） ……7
6．肥登遺跡（第２次） ……12
7．樫山遺跡 ……16
8．延岡城第14次（牧水広場） ……27
9．延岡城第15次（林友寮） ……29
10．上多々良遺跡 ……31

挿図目次

Fig.1　延岡市位置図
Fig.2　平成９年度発掘調査遺跡分布図 ……2
Fig.3　飯島遺跡（第２次）位置図 ……3
Fig.4　飯島遺跡（第２次）調査区配置図 ……3
Fig.5　竹下遺跡位置図 ……4
Fig.6　竹下遺跡調査区配置図 ……4
Fig.7　浜ノ山遺跡位置図 ……5
Fig.8　浜ノ山遺跡調査区配置図 ……5
Fig.9　日の出町遺跡位置図 ……6
Fig.10　日の出町遺跡調査区配置図 ……6
Fig.11　松尾城跡（第１次）位置図 ……7
Fig.12　松尾城跡（第１次）調査区配置図 ……7
Fig.13　松尾城跡（第１次）第１トレンチ実測図 ……9
Fig.14　松尾城跡（第１次）第２トレンチ遺構平面図　10
Fig.15　松尾城跡（第１次）出土遺物実測図 ……11
Fig.16　肥登遺跡（第２次）位置図 ……12
Fig.17　肥登遺跡（第２次）調査区配置図 ……12
Fig.18　肥登遺跡（第２次）出土古銭拓影図 ……13
Fig.19　肥登遺跡（第２次）第１トレンチ実測図 ……13
Fig.20　肥登遺跡（第２次）第２トレンチ実測図 ……14
Fig.21　肥登遺跡（第２次）出土遺物実測図 ……14
Fig.22　肥登遺跡（第２次）第３トレンチ実測図 ……15
Fig.23　樫山遺跡位置図 ……16
Fig.24　樫山遺跡調査区配置図 ……17
Fig.25　樫山遺跡第１トレンチ実測図 ……18
Fig.26　樫山遺跡箱式石棺実測図 ……19
Fig.27　樫山遺跡第３トレンチ遺構平面図 ……20
Fig.28　樫山遺跡第２トレンチ土壙実測図 ……21
Fig.29　樫山遺跡第４トレンチ遺構平面図 ……22
Fig.30　樫山遺跡第５トレンチ実測図 ……23
Fig.31　樫山遺跡出土遺物実測図 ……24
Fig.32　樫山遺跡出土遺物実測図 ……25
Fig.33　延岡城第１４次（牧水広場）位置図 ……27
Fig.34　延岡城第１４次（牧水広場）調査区配置図 ……27
Fig.35　延岡城第１４次（牧水広場）排水溝実測図 ……28
Fig.36　延岡城第１５次（林友寮）位置図 ……29
Fig.37　延岡城第１５次（林友寮）調査区配置図 ……29
Fig.38　延岡城第１５次（林友寮）遺構平面図 ……30
Fig.39　上多々良遺跡位置図および周辺遺跡分布図 ……31
Fig.40　上多々良遺跡調査区配置図 ……32
Fig.41　上多々良遺跡主体部検出状況および土層断面図　32
Fig.42　上多々良遺跡出土遺物実測図 ……33

表　目　次

第１表　平成９年度市内遺跡発掘調査一覧表 ……1
第２表　肥登遺跡（第２次）石塔群一覧（抜粋） ……15
第３表　報告書抄録 ……34

写真図版目次

PL.1　飯島遺跡（第２次）調査風景 ……3
PL.2　竹下遺跡調査風景 ……4
PL.3　浜ノ山遺跡調査風景 ……5
PL.4　日の出町遺跡調査風景 ……6
PL.5　松尾城跡（第１次）遠景 ……8
PL.6　松尾城跡（第１次）曲輪１近景 ……8
PL.7　松尾城跡（第１次）調査風景 ……8
PL.8　松尾城跡（第１次）第１トレンチ検出状況 ……9
PL.9　松尾城跡（第１次）第２トレンチ遺構検出状況　10
PL.10　松尾城跡（第１次）出土遺物 ……11
PL.11　肥登遺跡（第２次）出土古銭 ……13
PL.12　樫山遺跡遠景 ……16
PL.13　樫山遺跡調査区近景 ……17
PL.14　樫山遺跡第１トレンチ遺構検出状況 ……18
PL.15　樫山遺跡箱式石棺検出状況 ……19
PL.16　樫山遺跡第３トレンチ遺構検出状況 ……20
PL.17　樫山遺跡第２トレンチ土壙検出状況 ……21
PL.18　樫山遺跡第４トレンチ遺構検出状況 ……22
PL.19　樫山遺跡第５トレンチ遺構検出状況 ……23
PL.20　樫山遺跡出土遺物 ……26
PL.21　延岡城第１４次（牧水広場）排水溝検出状況 ……28
PL.22　延岡城第１５次（林友寮）遠景 ……30
PL.23　延岡城第１５次（林友寮）遺構検出状況 ……30
PL.24　上多々良遺跡主体部検出状況 ……33
PL.25　上多々良遺跡出土遺物 ……33

第Ⅰ章　はじめに

1. はじめに

延岡市は、宮崎県の北部に位置し、東経131 度32分45秒～131 度50分20秒、北緯32度43分32秒～32度29分11秒の間にあり、面積は238.77平方キロメートルである。人口は約12万７千人で宮崎県北の中核都市であり、県下最大の工業集積地となっている。また、一方では「内藤家伝来の能面展」や、本年10月に開催した「天下一薪能」等により文化的都市というイメージが定着してきている。

現在、延岡市では「リフレッシュのべおか」＝今以上に個性的で豊かな延岡の再生と創造を合言葉に、都市の活性化を推進させることを目的とした事業を展開している。都市基盤整備を重点的に進め、さらに「宮崎県北部地方拠点都市地域」の指定や「一般国道10号延岡道路」の都市計画決定を受け、それらの関連事業が動きだしている。念願だった４年制大学も、平成11年の開学に向けて前進している。

こういった状況の中で、公共・民間を問わず開発事業が増加し、それに伴い埋蔵文化財の調査数も増大している。同時に開発事業と文化財保護との関係が問題になりつつある。

今年度の調査は公共事業に伴う調査が主であり、これら開発事業と埋蔵文化財保護との調整資料を得るために確認調査を実施した。

本年度の市内遺跡発掘調査は、下記の９個所で実施した。また、昨年度末に調査した、飯島遺跡（第２次）を巻頭に報告し、赤木遺跡（第３次）は本調査を行ったため、別巻にて報告する。

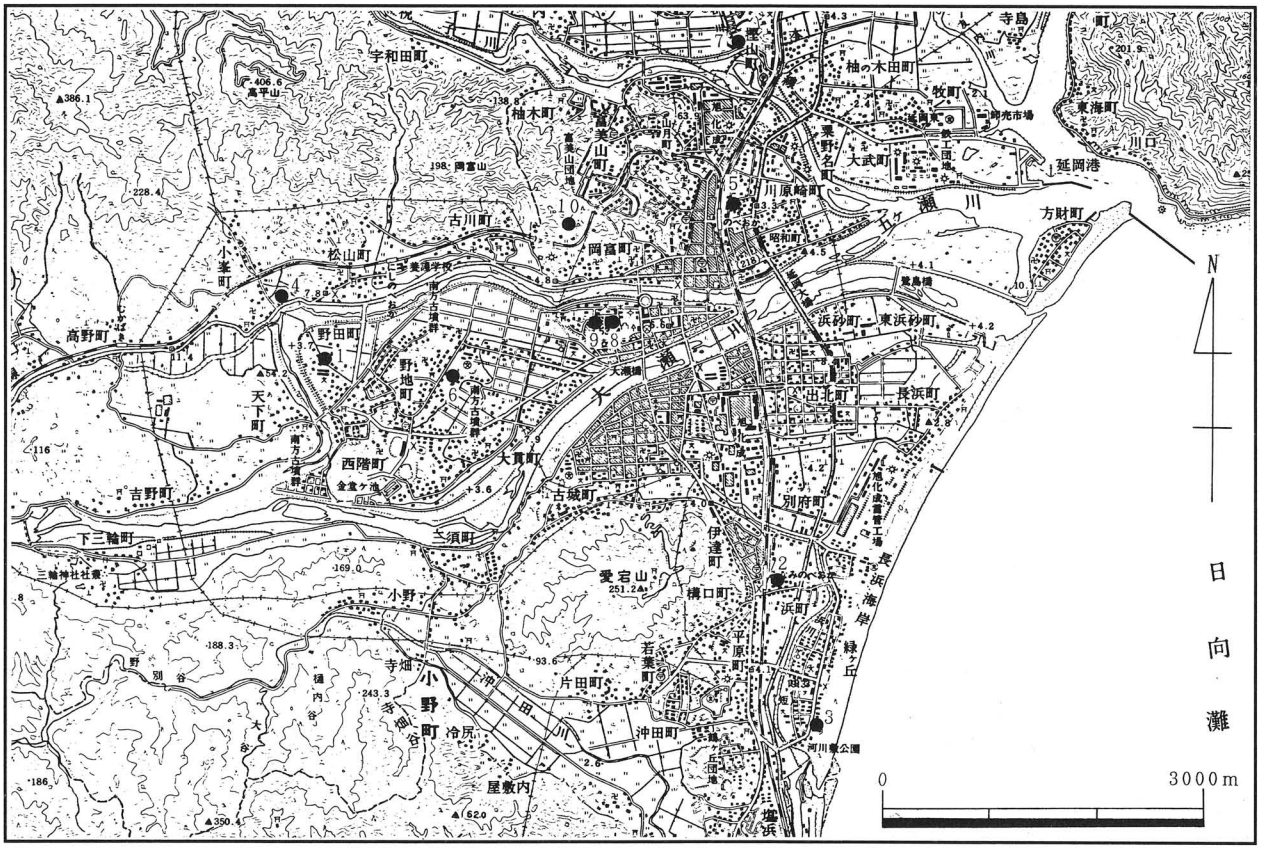
遺　跡　名	所在地（延岡市）	調　査　原　因	調査面積	調　査　期　間
飯島遺跡（第２次）	野田町字飯島	区画整理	65　㎡	平成９年３月１７日～２４日
竹下遺跡	浜町字竹下	大規模店舗建設	15.1 ㎡	平成９年４月９日～１１日
浜ノ山遺跡	緑ヶ丘字浜ノ山	国家公務員住宅建設	12.8 ㎡	平成９年４月１６日
松尾城跡	松山町字松山	急傾斜工事	16.9 ㎡	平成９年５月３０日～６月２０日
日の出町遺跡	日の出町字日の出	ビル建設	8　㎡	平成９年７月３１日～８月１日
肥登遺跡（第２次）	野地町字肥登	宅地造成	37.7 ㎡	平成９年１０月６日～２０日
樫山遺跡	樫山町字樫山	都市計画街路工事	103.5 ㎡	平成９年１０月２１日～１１月１３日
延岡城第14次（牧水広場）	延岡市字東本小路	公園整備（植栽）	37.3 ㎡	平成９年１２月８日～１５日
延岡城第15次（林友寮）	延岡市字本小路	急傾斜工事	14.3 ㎡	平成９年１２月１６日～１９日
上多々良遺跡	岡富町字上多々良	区画整理事業	97　㎡	平成１０年１月７日～２月３日

第１表　　平成９年度市内遺跡発掘調査一覧表

2. 調 査 の 組 織

調 査 主 体	延岡市教育委員会	
	教 育 長	牧野 哲久
	文 化 課 長	大石 孟
	文化課長補佐兼文化振興係長	酒井 修平
	文 化 財 係 長	渡辺 博吏
庶 務 担 当	文 化 課 主 査	赤野 昭男
	文化課副主査	吉永 綏子
調 査 担 当	文化課主任主事	山田 聡
	文 化 課 主 事	尾方 農一
	文 化 課 主 事	高浦 哲
	特 別 調 査 員 宮崎大学教育学部助教授	柳沢 一男
発 掘 作 業 員	安藤登美子、小野愛子、甲斐カツキ、柏田キトリ、久保利夫、久保利男、酒井 巌、酒井キミ子、酒井清子、酒井正志、武田ヨシ子、富永恵美子、林田裕子、明利政子、柳田イサ子、柳田時子	
資 料 整 理	甲斐千恵美、甲斐智子、敷石サヨ子、野脇信子、船石涼代、山本敬子	

発掘調査の事前協議等において、九州財務局宮崎財務事務所、宮崎県東臼杵農林振興局森林土木課、延岡営林署、市土木課、同街路公園課、同区画整理課に御協力をいただいた。また土地所有者の、株式会社ホームインプルーブメントひろせ、有限会社三晃建設の方々には、調査の過程において便宜を図っていただいた。記して感謝します。



1．飯島遺跡（第２次）　2．竹下遺跡　3．浜ノ山遺跡　4．松尾城跡（第１次）
5．日の出町遺跡　6．肥登遺跡（第２次）　7．樫山遺跡　8．延岡城第14次（牧水広場）
9．延岡城第15次（林友寮）　10．上多々良遺跡

Fig.2　平成９年度　発掘調査遺跡分布図（1/70,000）

第Ⅱ章　調査の記録

1．飯島遺跡（第２次）

所 在 地　延岡市野田町５９８１外
調査原因　区画整理事業
調査期間　970317～970324

調査面積　６５㎡
担 当 者　高 浦
処　　置　協 議

⑴位置と環境

当遺跡は、延岡市街地から西方に約2.5 kmにある水田と畑地に広がる微高地に位置する。調査地の北側と西側は五ケ瀬川に接している。ここは、河川の蛇行による堆積物で形成された地形にあたり、古くから洪水によって影響を受けた地域である。それを裏付けるように平成７年度の調査では、５層になる河原石堆積層が検出されている。

また調査において、水田跡等の有無確認のため、プラントオパール分析を実施している。

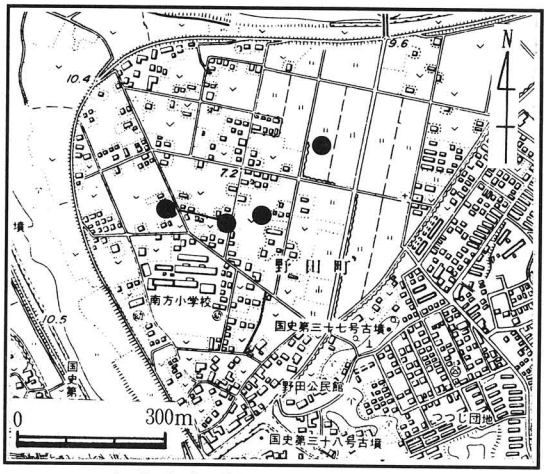


Fig. 3　飯島遺跡（第２次）位置図（1/15,000）

⑵調査の概要

平成７年度の調査により、調査地周辺から少量ながらプラントオポールが検出されている。この結果から発掘調査は古代水田面の検出を目的とし、トレンチ調査法による確認調査を実施した。調査は公有地化が終了している４個所について行った。

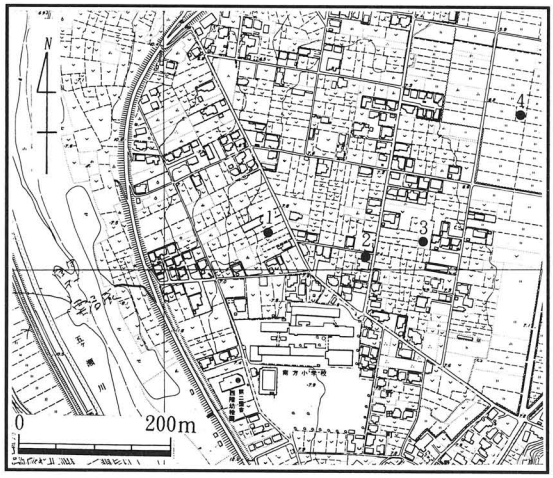


Fig. 4　飯島遺跡（第２次）調査区配置図（1/10,000）

⑶検 出 遺 構

トレンチ４から、現代の水田面が検出された。その下層からは、河原石堆積が確認された。同様にトレンチ１からも、河原石が検出された。

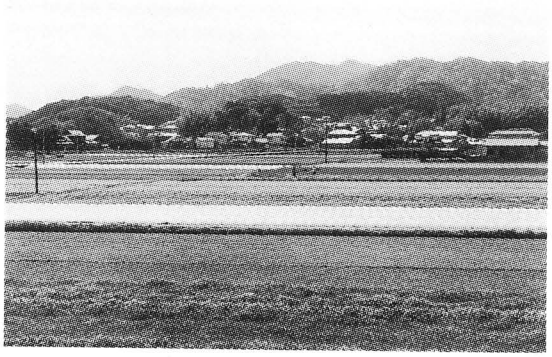
⑷出 土 遺 物

遺物は出土していない。

⑸ま　と　め

今回の調査では、古代水田面の検出はできなかった。また、プラントオパール分析も行わなかったため、詳細なデータは得られなかった。

しかし、平成７年度の分析結果から水田址の存在が考えられることから、区画整理事業を進めていくなかで当地の埋蔵文化財の取扱について、十分な協議が必要である。


PL. 1　飯島遺跡（第２次）調査風景

2．竹下遺跡

所 在 地　延岡市浜町４７８３外
調査原因　大規模店舗建設
調査期間　970409～970411

調査面積　１５．１㎡
担 当 者　尾方・高浦
処　　置　調査後破壊

⑴位置と環境

当遺跡は、市街地から南に約3.3 kmの地点に位置し、日豊本線南延岡駅の東側に広がる、水田地帯の一角に当たる。北および東には、沖田川の支流である浜川が流れている。

調査地である浜町は、延岡藩主有馬直純が元禄年間に、播州赤穂から５家族の製塩技術者を招いて、製塩を行ったとされている。

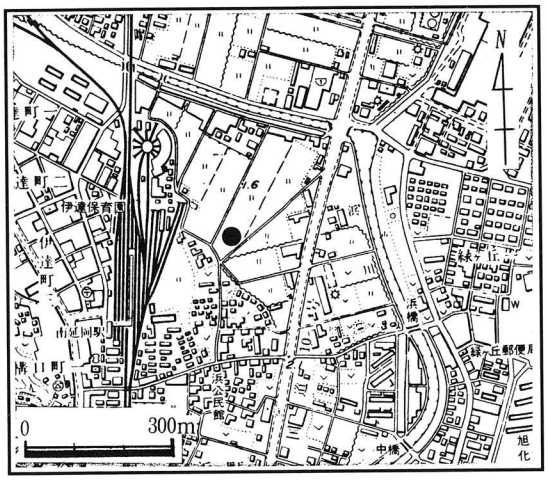


Fig. 5　竹下遺跡位置図（1/15,000）

⑵調査の概要

発掘調査は土層観察と遺構検出を目的とし、トレンチ調査法による確認調査を採用した。開発予定地である水田に３箇所のトレンチを設定し調査を行った。

調査により近代の水田基盤層が検出されたが、近世前の水田跡の検出はできなかった。また、トレンチ３から河石が検出され、聞き取り調査から調査地は、近くを流れる浜川の旧河道であることが分かった。

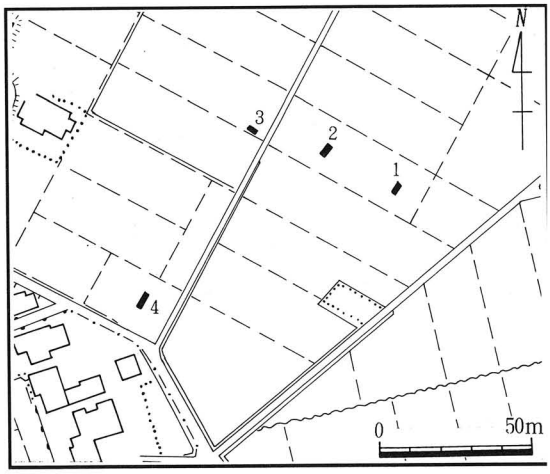


Fig. 6　竹下遺跡調査区配置図（1/2,500）

⑶検 出 遺 構

検出されていない。

⑷出 土 遺 物

遺物は出土していない。
トレンチ３の約１ｍ下から河石を検出。

⑸ま　と　め

今回の調査では、遺構、遺物は検出されなかったが、河石の検出および、聞き取り調査から浜川の旧河道を知ることができた。

有馬期より始められた製塩跡についても、裏付ける資料は得られなかっが、今後の周辺地域での開発には注意を要する。

PL. 2　竹下遺跡調査風景

3．浜ノ山遺跡

所 在 地　延岡市緑ヶ丘５丁目４－１
調査原因　国家公務員住宅建設
調査期間　970416
調査面積　１２．８㎡
担 当 者　尾方・高浦
処　　置　調査後破壊

⑴位置と環境

当遺跡は、市街地から南に約4.8 kmの地点に位置し、沖田川の支流である浜川と、日向灘に挟まれた海岸部に位置する。この周辺は、開発により造成された新開地で、現在住宅が立ち並んでいる。

調査地は以前、旭化成の社宅が建設されていた。また近くには競馬場もあったが、今はその様子を伺うことはできない。

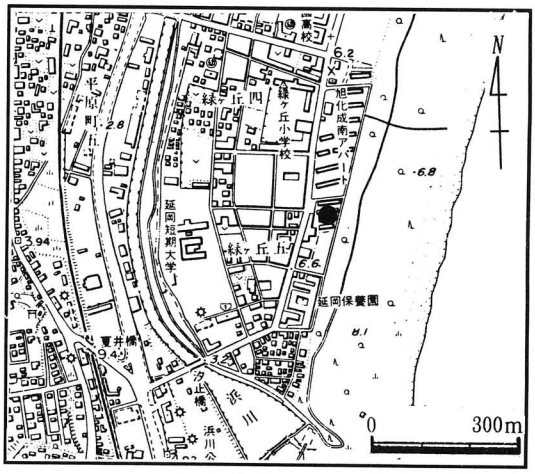


Fig. 7　浜ノ山遺跡位置図（1/15,000）

⑵調査の概要

発掘調査は土層観察と遺構検出を目的とし、トレンチ調査法による確認調査を採用した。開発予定地に５箇所のトレンチを設定し調査を行った。

約60cmの客土が確認され、客土中から以前建設されていた社宅の基礎跡が検出された。また、その埋土の下から、良好な砂層が検出された。

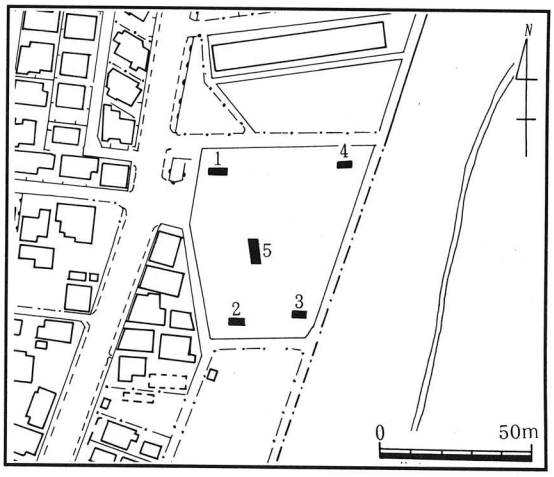


Fig. 8　浜ノ山遺跡調査区配置図（1/2,500）

⑶検 出 遺 構

検出されていない。

⑷出 土 遺 物

遺物は出土していない。

⑸ま　と　め

今回の調査では、遺構、遺物は検出されなかったが、砂層の検出より当時の海岸部が調査地まで延びていたことを知ることができた。

延岡市に隣接する市町からは、同様な海岸部から遺構、遺物が検出されており、今後海岸部での開発には注意を要する。

PL. 3　浜ノ山遺跡調査風景

4．日の出町遺跡

所 在 地　延岡市日の出町２丁目６－12
調査原因　ビル建設
調査期間　970731～970801

調査面積　８㎡
担 当 者　山田
処　　置　調査後破壊

(1)位置と環境

日の出町は、五ヶ瀬川北岸にあるＪＲ延岡駅の北東部に位置する。本市は、太平洋戦争中の昭和20年６月29日に米軍による空襲を受け、当地を含む市街地の多くが焼失している。このため、市内各地で戦災復興事業などによる区画整理事業が展開されており、当該地域においても昭和37年から同48年度にかけて市施工による区画整理事業が実施されている。したがって、現状から旧地形を把握するようなことは殆ど不明であるが、終戦後の撮影された航空写真によると一帯は水田や小河川がみられる。同町からは、出土地不明であるが弥生時代終末～古墳時代初頭の土器が出土した他、昭和50年代には南西に隣接する幸町の建物建設に伴う掘削作業中において弥生土器が出土したとの報告があり、一帯には埋没した微高地があって弥生～古墳時代の集落などが存在していたと考えられている。

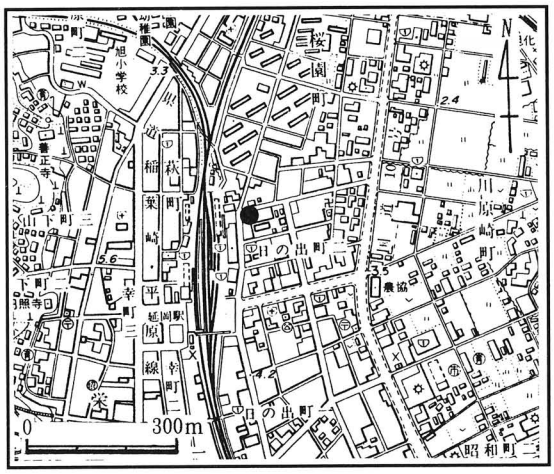


Fig.9 日の出町遺跡位置図（1/15,000）

(2)調査の概要

調査地は、区画整理事業に伴う盛土が予想されることから、ユンボによるトレンチ調査を行った。地表下約１ｍまでは、いわゆる石炭ガラや客土による盛土層が認められ、その直下から旧水田面が確認された。この層は、昭和23年撮影の航空写真に見られたものに相当し、標高は約２ｍを測る。その下層は暗灰褐色粘質土があり、標高約１ｍから下層は砂層が検出され大量の湧水が認められた。さらに下層を掘り下げたが河原石等の礫は検出されなかった。

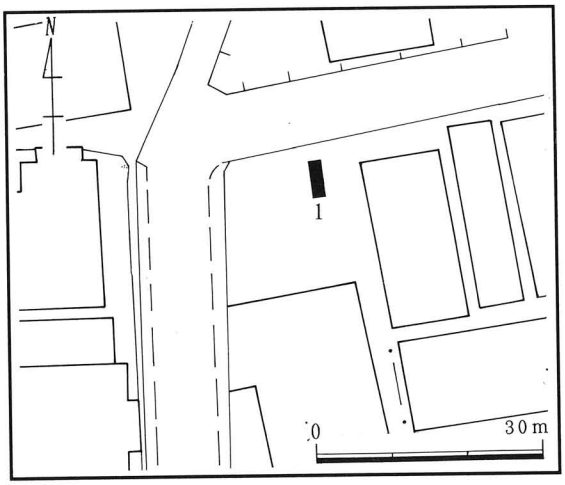


Fig.10　日の出町遺跡調査区配置図（1/1,000）

(3)検 出 遺 構

検出されていない。

(4)出 土 遺 物

遺物は出土していない。

(5)ま　と　め

今回は、埋蔵文化財は確認されなかったが、ＪＲ延岡駅周辺地区における初調査としての実績や古環境を検討する上でのデータが得られ、今後計画される駅周辺地区の再開発事業等と文化財保護行政との調整資料としての活用が期待される。

PL.4　日の出町遺跡近景

5．松尾城跡（第１次）

所 在 地　延岡市松山町1041番地外
調査原因　緊急治山事業
調査期間　970530～970620

調査面積　１６．９㎡
担 当 者　山田
処　　置　調査後一部保存

(1)位置と環境

松尾城は、市街地から約４㎞程西側に位置する標高54.5mの丘陵を中心に位置する。在地豪族の土持氏が井上城（古城町）、西階城（西階町）と城を移り、その後文安元年（1444）から３年かけて築城したと伝えられる延岡地域最大の中世城郭である。土持氏は、都於郡城（西都市）に本拠を構える日向最大の伊東氏との敵対関係にあったといわれ、伊東氏の勢力拡大に伴い五ヶ瀬川北岸に松尾城を築いたものと考えられている。城の東側には、古代の旧官道と考えられているルートが南北に延び、古くから交通の要衝でもあった。曲輪は、丘陵頂上部にある曲輪を最高位として東と北にそれぞれ延びる尾根を中心につくられている。現在、東側の曲輪には一部土取りが行われたり本東寺が建っているが、全般的には堀切、竪堀、土

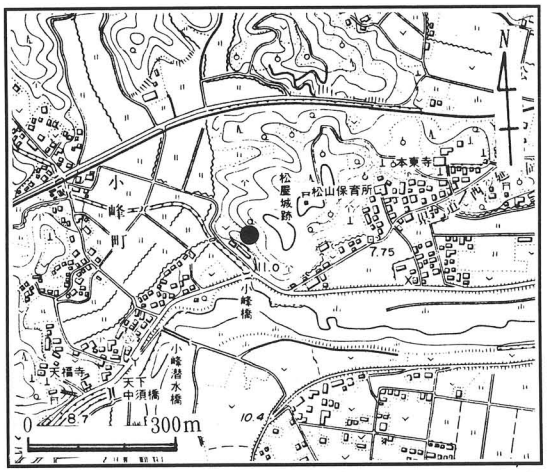


Fig.11　松尾城跡（第１次）位置図（1/15,000）

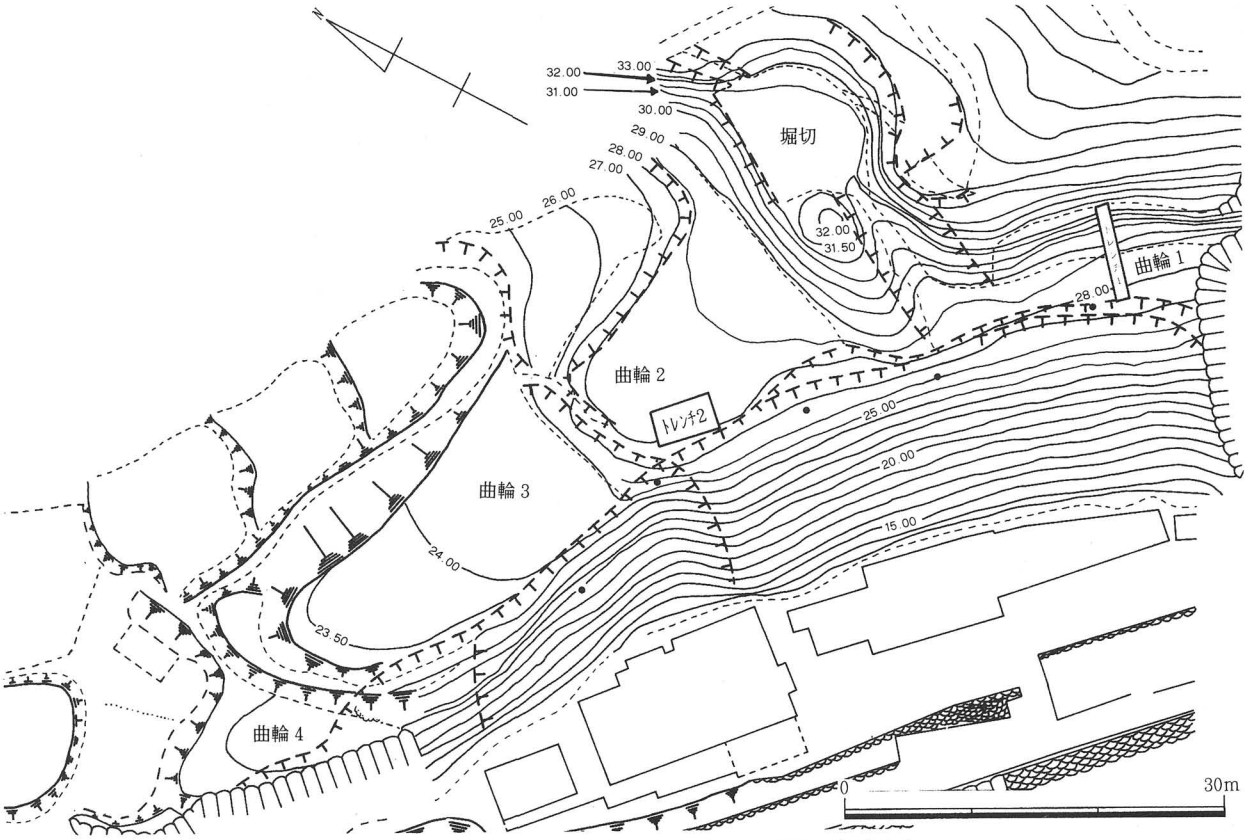
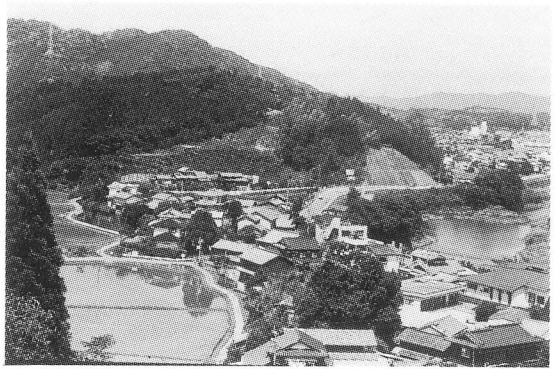


Fig.12　松尾城跡（第１次）調査区配置図（1/600）

塁などの施設は概ね残存している。

⑵調査の概要

平成８年２月初旬、松尾城跡南西斜面において急傾斜防災工事が行われているのを確認し、早速業者から工事状況を聴取し、発注元の県東臼杵農林振興局森林土木課、市農林課、県文化課、市教育委員会との協議を行った。その中で、事業地周辺は、松尾城跡として文化財保護法の「周知の埋蔵文化財包蔵地」であること、土木工事等を行う場合には文化財保護部局との事前協議が必要になること、工事に当たっては文化財保護法第57条の３第１項に基づく文化庁長官への文書が必要になる旨を通知した。また、現計画では城郭の重要部分である曲輪及び堀切遺構が滅失することから工法の再検討を要請した。これを受けて県東臼杵農林振興局は工事を一時中断するとともに設計の見直し作業を進め、後日再協議を行った。その結果、斜面角を立ち上げ、アンカー工法による曲輪部分への影響を最小限に止めることが可能との結論が出され、この工法で事業を進めることで合意し、一部影響を受ける曲輪部分について記録保存措置を取ることとした。



PL.５　松尾城跡（第１次）遠景

PL.６　松尾城跡（第１次）曲輪１近景

PL.７　松尾城跡（第１次）調査風景

調査は、まず地形測量を行い、そのデータに基づいてトレンチを設定した。予定地付近は、工事のため既に伐採されており、曲輪４箇所、堀切１箇所が容易に観察された。曲輪は、最近まで畑として利用されていたが、表面上の遺存状況は良好であった。しかし、地主などから過去の水害で曲輪１の一部を含む斜面崩落が起き、直下の小峰川をせき止めたことがあるとの話を得た。そこで詳細に地形確認を行ったところ、曲輪１の南側は幅約15mにわたってU字谷状の地形になっているのが確認され、対岸にも平坦部が残っていたことから曲輪１が細長く伸びていたことが判った。１トレンチは、曲輪１に設定した。調査の結果、一部斜面を削り平地を形成していたことが確認され、山側の地山面上層からは、円礫を敷き詰めた遺構がみられた。これは、平成８年度実施の高鍋城跡調査で確認された遺構と同様のものと推定され、排水若しくは暗渠遺構としての可能性が考えられる。トレンチ２は曲輪２に設定した。現在は曲輪の端部にあたり、木柵等のピット群の存在が予想されるが、西側斜面には崩落跡が観察され本来の端部ではなかった可能性もある。調査の結果、表土から遺物が若干出土した。第２層は地山岩土混じりの土壌で、土色の判別は非常に困難であったこともありピット群は確認されなかったが、角礫

の配石遺構が検出され、その状況から礎石の根石の可能性が考えられる。

⑶検出遺構

トレンチ１では、地山面の上層に円礫を敷いた暗渠状の配石遺構を確認。トレンチ２では、配石遺構が検出された。

⑷出土遺物

第１トレンチからは、配石遺構直上から鉄滓(No.８）が出土した。第２トレンチからは、表土から肥前磁器椀（No.３～５）が出土した他、第２層の地山岩土混じりの暗茶褐色粘質土から磨製石包丁（No.７）、磁器小皿（No.２）、用途不明の杓子状の青銅製品（No.６）、土師器小皿（No.１）、土錘（No.９～12）が出土した。

⑸まとめ

今回は、松尾城における初調査であったが、面的な調査ではなかったため詳細な検討はできないが、測量調査によって曲輪群等の構造の一部を確認することができたことは大きな成果である。ま

PL.８　松尾城跡（第１次）第１トレンチ検出状況

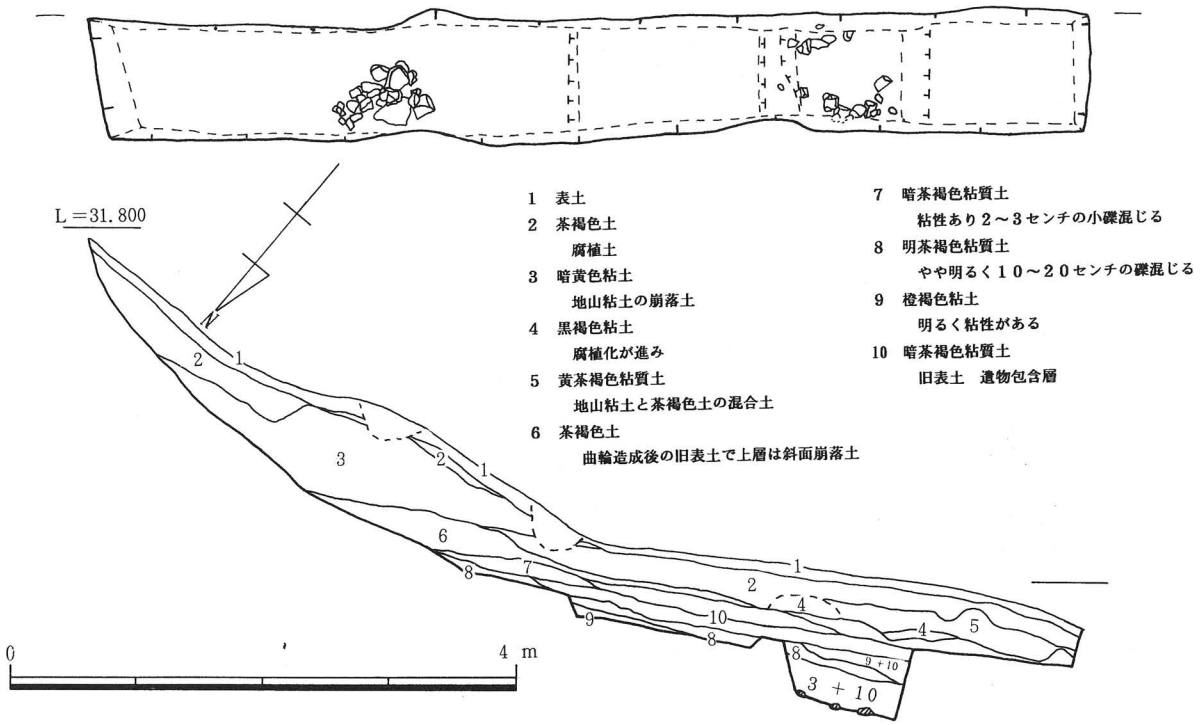


Fig.13　松尾城跡（第１次）第１トレンチ実測図（1/60）

認することができたことは大きな成果である。また、従来の城跡範囲は国道218号線に面した丘陵のみと考えられていたが、現在実施されている県内の中近世城館分布調査等によって、丘陵北側にあるＴＲ高千穂鉄道によって分断される格好で、北側の丘陵筋にも続いていることが次第に判明しつつあり、その規模は県内でも有数のものになるとみられており、今後の調査による全容の解明が期待される。

なお、今回の調査は、開発部局と文化財保護部局との、計画段階での事前調整が行われなかったことに起因するものであった。したがって、既に実施されている事業のため、その性格上抜本的な計画変更等は不可能であり、事前調整の重要性を痛感させられる案件であった。今後進められる各種開発事業について、この教訓を生かし計画段階での事前協議のルールづくりを県文化課とも調整を図りながら早急に進める必要がある。

PL.9　松尾城跡（第１次）第２トレンチ　遺構検出状況

Fig.14　松尾城跡（第１次）第２トレンチ遺構平面図（1/40）

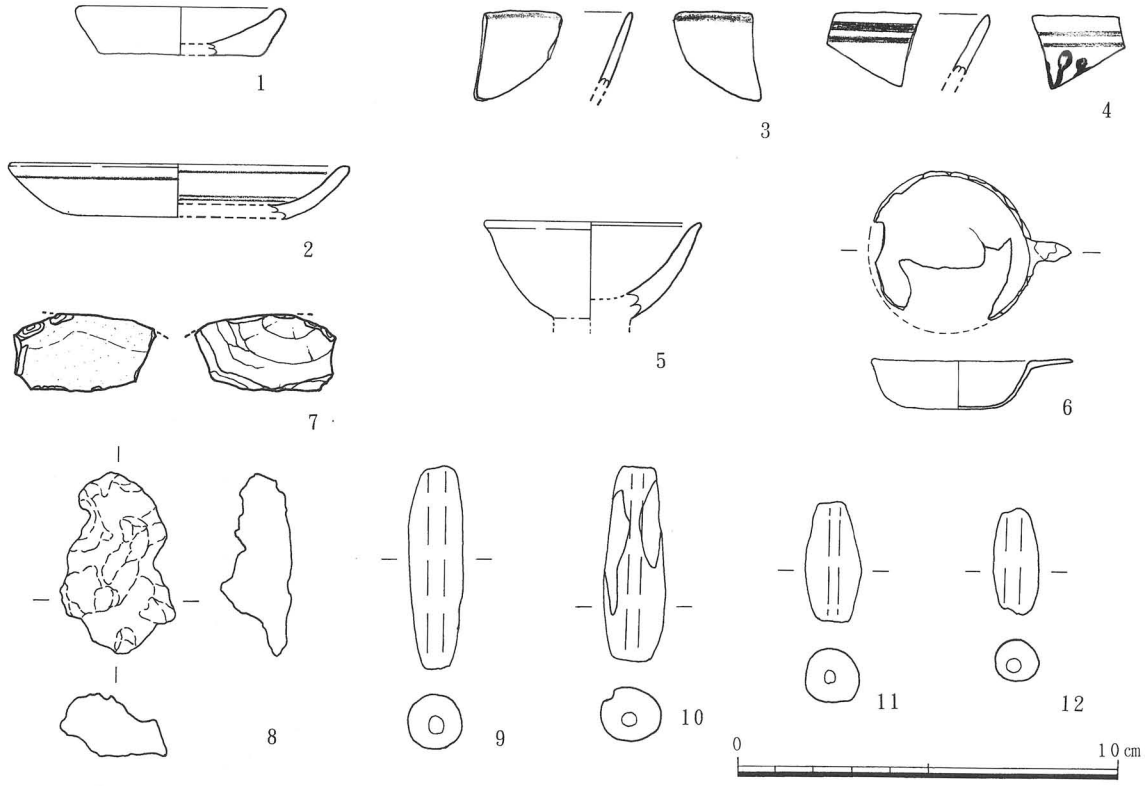
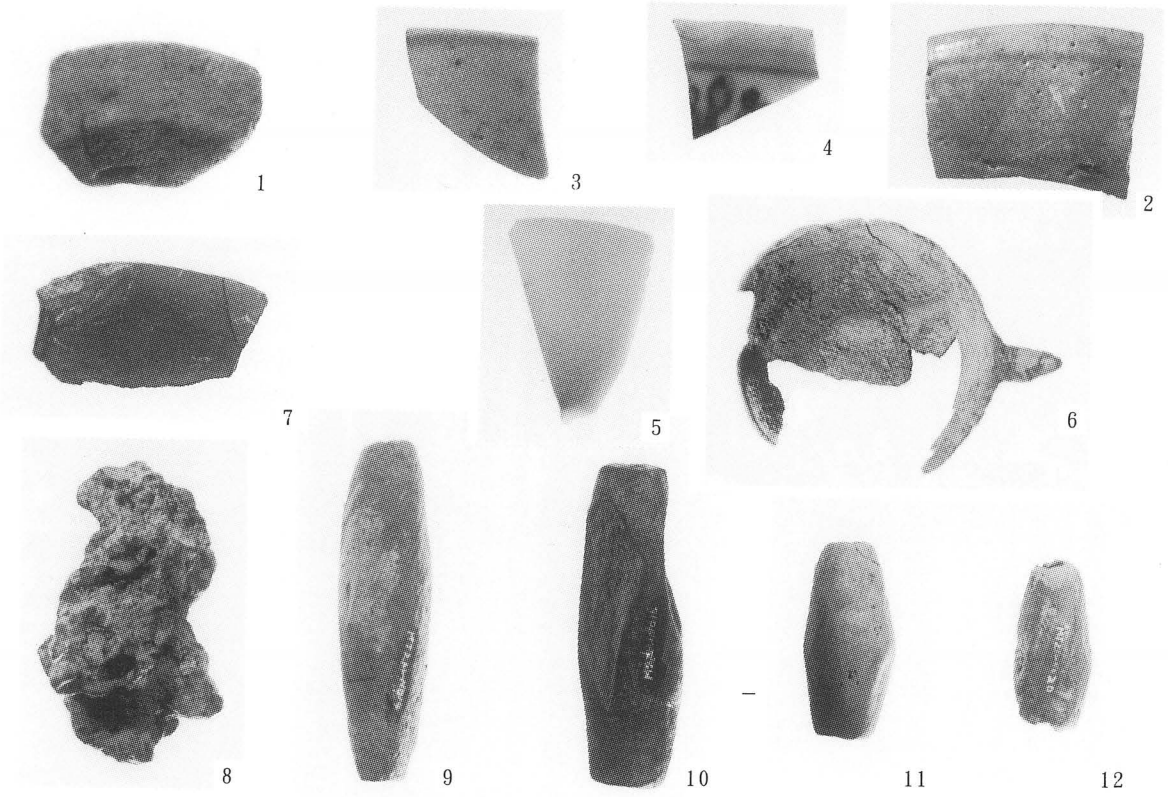


Fig15.　松尾城跡（第１次）出土遺物実測図（1/2）



PL10.　松尾城跡（第１次）出土遺物

6．肥登遺跡（第２次）

所 在 地	延岡市野地町３丁目３７２９－２外	調査面積	３７．７㎡
調査原因	宅地造成	担 当 者	山田
調査期間	970929～971020	処　　置	調査後破壊

(1)位置と環境

本遺跡は、延岡市野地町字岩崎、字肥登に所在する。市街地から約1.6km程西方にある独立丘陵上に位置し、南側約0.6kmには浄土寺山古墳を中心とした大貫古墳群（国史跡南方古墳群）、北西約0.5 kmには野地古墳群（国史跡南方古墳群）の丘陵を望むことができる。この丘陵は、中央部が括れて東西に広がり西側に丘陵のピークがある地形となっており、非常に眺望がよく小字名から肥登＝太陽が昇る神聖な場所として祭祀等の場に利用されていたのではないかとも言われている。東側丘陵は既に住宅地となっているが、以前は平坦地が広がり、古墳時代の石人とも指摘されている通称野地の石人と呼ばれる凝灰岩製の石塔をはじめ、東端部には露出した横穴式石室の痕跡と考えられているガンガン石と呼ばれる巨石群の存在など周辺遺跡との性格の違いが注目される。今回調査予定の西側丘陵は、古くから野地町の共同墓地として利用され、現在は常楽寺によって管理されている。地元では経塚山と呼ばれており、おそらく墓地造成の際に経塚が確認されたのかもしれないが詳細は不明である。丘陵の北側及び西側は、昭和37年の宮崎県立延岡西高等学校造成において削平され、その際石塔を残った丘陵地に無造作に移されている。このため調査予定地に

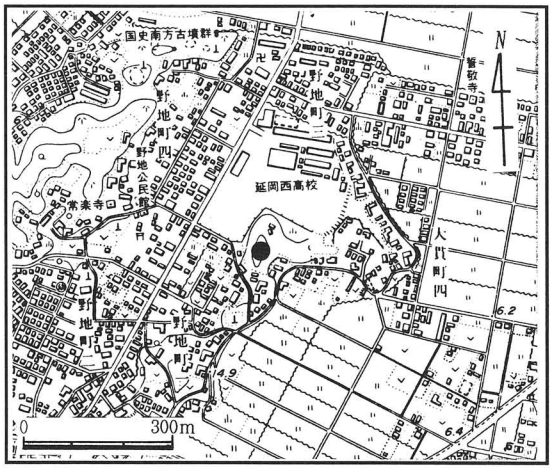


Fig.16　肥登遺跡（第２次）位置図（1/15,000）

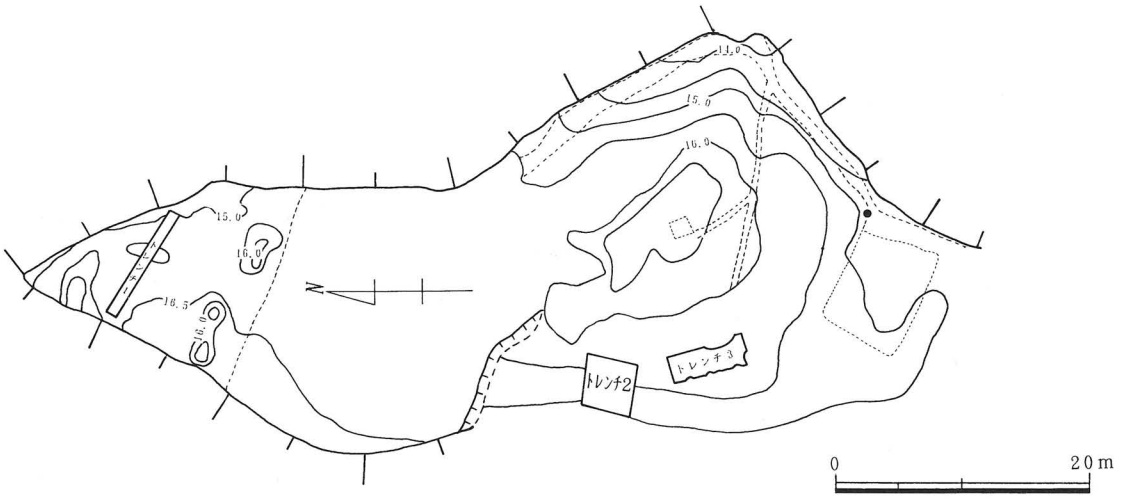


Fig.17　肥登遺跡（第２次）調査区配置図（1/600）

は無数の石塔がみられるがその多くが倒壊したり寄せ墓になっているため、年代が判定できるものは数10基程度である。また、伝承によると、削平で残った斜面から古墳時代の石棺が検出されたとされるが現在は不明である。昨年度に実施した１次調査では、括れ部分を中心に行ったが、戦後を中心に行われた畑造成のため遺構等は検出されていない。

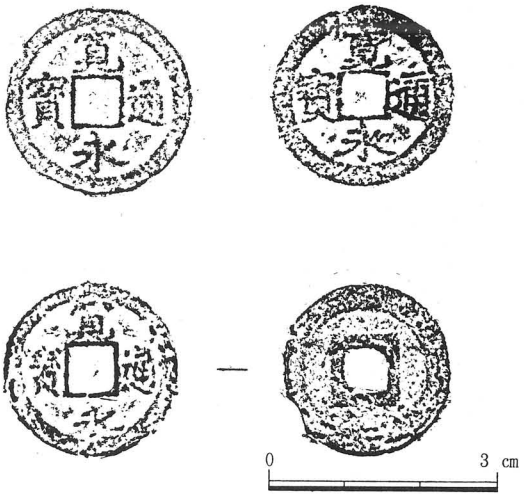
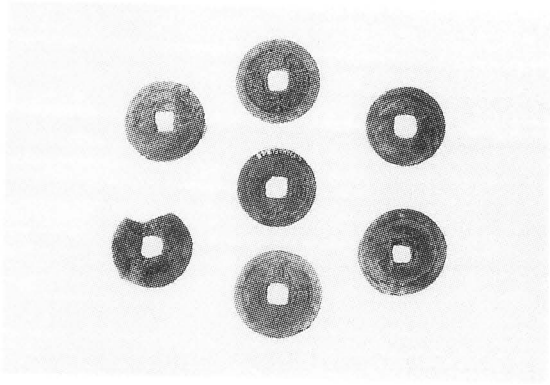


Fig. 18　肥登遺跡（第２次）出土古銭拓影図

⑵調査の概要

調査は、昨年度に実施した確認調査に引き続き、西側丘陵の対象地で石塔群の影響が少ない平坦部を選定しトレンチ方式で実施した。１トレンチは、丘陵の北側尾根筋の石塔群が林立する中に設定した。調査の結果、地表面では石塔は確認されなかったが、土葬を示す深い落ち込みが検出され、廃棄された石塔の一部や埋葬銭が出土した。また、土層観察から度重なる墓地利用のため殆ど攪乱を受けた状況にあり、プライマリーな状況で残っていないことが判った。２トレンチは、丘陵尾根からやや西側に傾斜する緩斜面上に設定した。調査の結果、竹根が多く張っていたため土層観察は不可能であったが、本丘陵で初めて旧石器時代



PL. 11　肥登遺跡（第２次）出土古銭

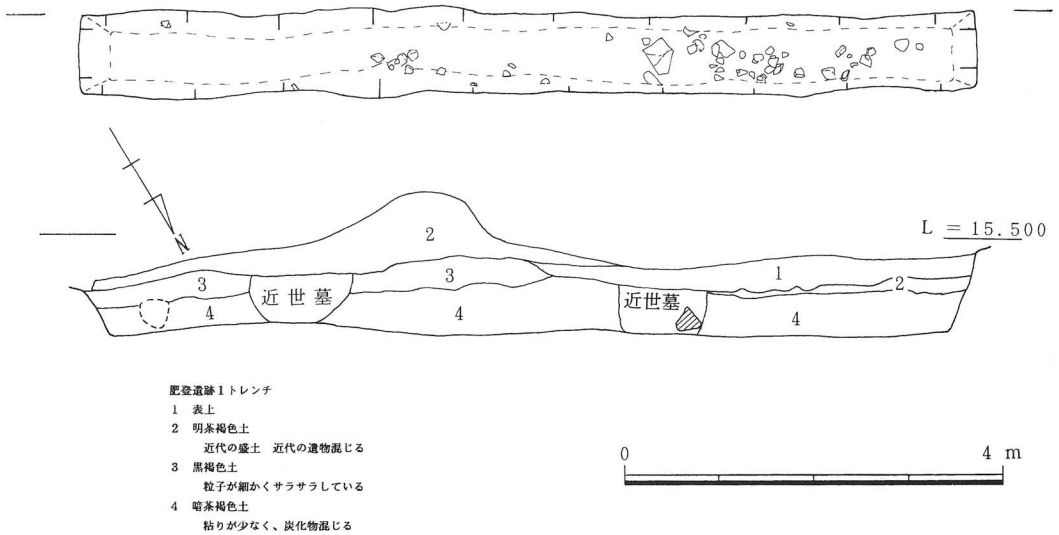


Fig. 19　肥登遺跡（第２次）第１トレンチ実測図（1/80）

の遺物が出土した。このため、隣接する平坦部に新たに３トレンチを設定したが、表土から若干の陶磁器が出土するのみで、他の遺物等は検出されなかった。この他、常楽寺の住職などの聞き取り調査で、以前は祠が存在していたことが分かり、その地点の確認を行った。その結果、祠本体は確認されなかったが、周辺から破棄された昭和時代の瓦片や、祠に奉納されたとみられる穴が空いた軽石、古銭が検出された。さらに、調査対象地一帯からは、殆どが倒壊したり埋没していたが、寄せ墓を含めて約３００基以上の石塔が確認され、その一部について年代等の確認調査を実施した。

⑶検出遺構

１トレンチにおいて、近世墓２基を確認した。

⑷出土遺物

１トレンチからは、近世墓から一部腐食による判別困難のものもみられるが寛永通寶６点がまとまって出土した。２トレンチからは、表土から土師器片５点、表土直下から、プライマリーな状況とはいえないが旧石器時代の剥片１点、使用痕のある剥片１点の何れも流紋岩製が出土。３トレンチからは、近世～近代の陶磁器片５点出土。祠跡からは、寛永通寶２点出土。この他、表採資料として近世の土師器片１５点、軽石が出土した。

⑸まとめ

今回は、昨年に引き続く２カ年事業の調査として成果が期待されたが、予想以上に長期の墓地利用による攪乱があることが判り、今後の調査方法の検討課題となった。また、市内で確認されている石塔群の中でも有数の大型板碑（1,2)が確認されたことは、本地域における主要な墓地で且つ有力者がいたことを裏付けるもので、今後の墓碑内容等の解明が進めば、内藤家文書に代表される近世文書との照合が可能になり、地域史の解明につながっていくものとして期待される。

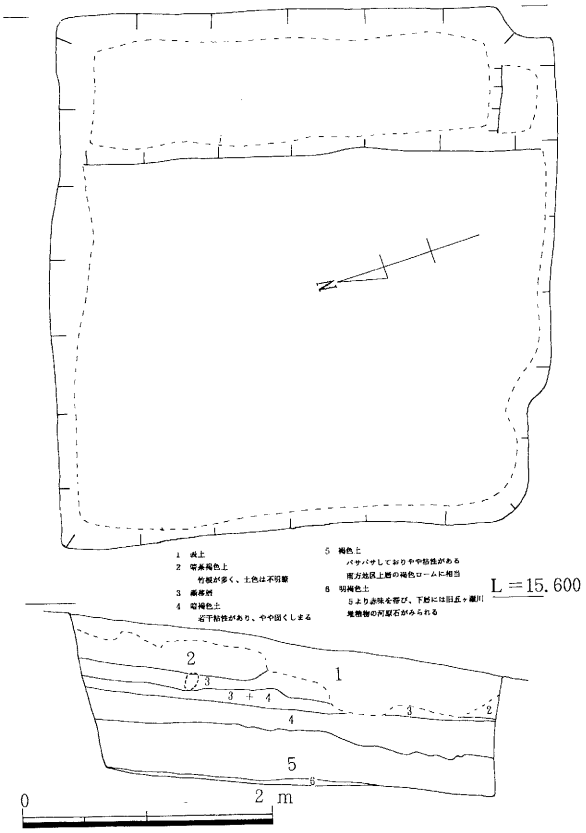


Fig. 20　肥登遺跡（第２次）第２トレンチ実測図（1/60）

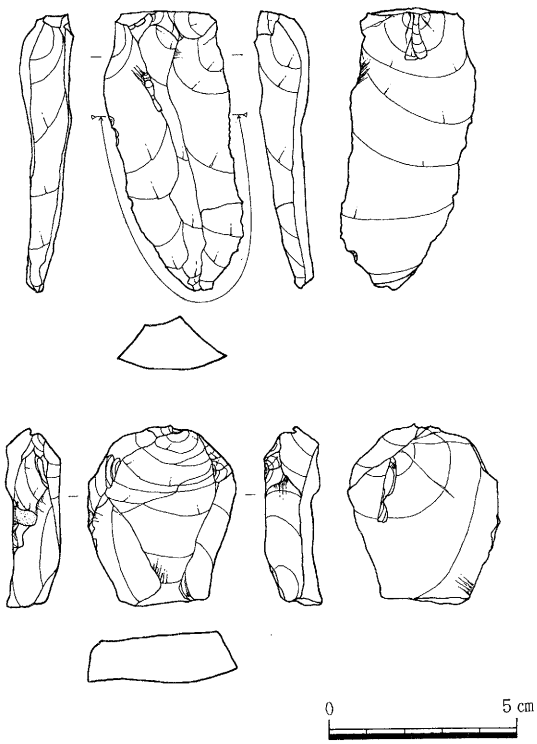


Fig. 21　肥登遺跡（第２次）出土遺物実測図（1/20）

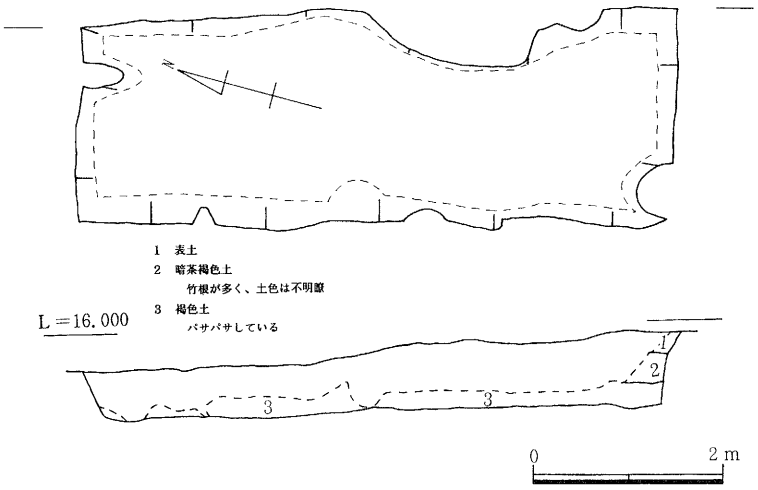


Fig. 22　肥登遺跡（第２次）第３トレンチ実測図（1/80）

○は梵字

番号	種類	紀年銘	西暦	碑銘	俗名等
1	板碑	明暦元年十一月十日	1655	爲　月圓祀秋禅定門　孝子敬白	
2	板碑	寛文九年五月六日	1669	爲　常清禅定門也	
3	板碑	元禄七年八月廿三日	1694	法名　周悦道令	
3	板碑	元禄十四年十二月廿六日	1701	法名　釋尼妙頓	
4	板碑	宝永七歳九月十二日	1710	釋　甲斐氏玄閑正定聚位	
5	板碑	享保七年八月十二日	1722	法名　釋浄蓮正定位	甲斐野右衛門
6	板碑	元文二年九月十一日	1737	○　玄了信士位	
7	板碑	寛保二天正月二日	1742	○　妙桂信女位	
8	板碑	寛保三年六月十六日	1743	○　瓔室珠珞信女位	佐藤喜三郎　母
9	地蔵	享禄元天十月廿六日	1744	幻霜童女幽□	
10	板碑	寛延二年九月廿九日	1749	歸　清林信士之位	俗名　半七
11	板碑	寛延四天七月二十九日	1751	不眠定了信士	俗名　佐藤谷助
12	板碑	宝暦五天六月廿六日	1755	夏屋妙善信女霊位	
13	板碑	明和三年十一月廿四日	1766	元　一霜妙心個女	
31	板碑	明和四年八月廿二日	1767	玉月秋圓信女位	甲斐吉之助　妻
14	板碑	天明四天四月八日	1784	空　夏雲壽清信士	俗名　佐藤直助
15	板碑	寛政元年十二月十三日	1789	世寡貞童子位	
16	板碑	寛政二年五月廿二日	1790	本目妙傳明清信士	平蔵　父
17	板碑	寛政三天六月十五日	1791	法名　釋尼妙念不退	芳村秀甫妻　よし墓
18	板碑	寛政三歳十一月十日	1791	歸元宗壽智源大姉	佐藤杏太夫　母
19	板碑	寛政四天五月十二日	1792	歸本實相了眞信士	
20	板碑	寛政十二天二月廿八日	1800	歸元春峯智月信女	佐藤忠太平　佐藤喜三良　妻
21	板碑	文化四天十一月一日	1807	早世松月禅童子	
22	板碑	文化五天二月十六日	1808	法名　釋子圓桑不退位　釋尼妙圓不退位	芳村秀甫　秀甫妻
23	板碑	文政九年四月五日	1826	壽屋貞真禪女	佐藤忠太平忠綱　妻　行年七十歳
25	板碑	天保十年三月二十四日	1839	儀　翁了道居士	佐藤忠太平　行年八十二歳
24	板碑	天保十四年旧九年十九日	1843	早世秋露童子	廣治　子
26	板碑	弘化二天九月廿六日	1845	釋　觀烝不退位	徳治子　浅吉
27	板碑	嘉永四暦正月廿日	1851	南無阿彌陀佛霊	六人の霊　甲斐辰三郎建立
28	板碑	安政三天二月二日	1856	安室妙参大姉位	佐藤廣治妻　行年三十五歳
29	板碑	文久元年九月廿二日	1861	金號釋浄證不退位	佐藤廣吉　芳村　父　喜市郎事　行年六拾七才
30	板碑	文久元年十一月十二日	1861	法名釋尼妙鏡信	芳村幸四郎　妻だい

第２表．肥登遺跡（２次）石塔群一覧表（抜粋）

7．樫山遺跡

所在地	延岡市樫山町７６０５－３外	調査面積	１０３．５㎡
調査原因	都市計画街路工事	担当者	山田
調査期間	971021～971113	処置	調査後破壊

(1)位置と環境

樫山町は、市街地北部を流れる祝子川北岸に位置し、背後には独立丘陵状の樫山丘陵（標高約59m）が存在し、丘陵の北東側には県北最大の前方後円墳である菅原神社古墳（県指定延岡古墳群第22号墳・墳長約110m以上）が立地する。この丘陵は、ほぼ南々東から北々西方面に延び、丘陵北部には括れ部があって、南西から北東に延びる谷状の地形が存在し、それを境として南側の南丘陵、さらに北々西に延びる北丘陵に分けることができる。これらの尾根筋には、古墳時代前期末～６世紀代の古墳群（樫山古墳群）が営まれ、大正14年・昭和25年・昭和45年の３回にわたる発掘調査が実施されている。北丘陵には、前方後円墳１基、円墳５基（この中には県史跡延岡古墳群第18号墳《七曲古墳》を含むが、団地造成により消滅）が確認され、主体部は粘土槨、土壙が検出されている。一方、南丘陵には、前方後円墳１基（県史跡延岡古墳群第19号墳で現在は円墳状に残存）、円墳７基が確認され、なかでも、円墳とされるＡ号墳は、主体部に竪穴式石室を有し、内行花文鏡をはじめ、小札鋲留型衝角付冑、短甲、勾玉、管玉、小玉、直刀、鉄鏃が副葬されており、他の古墳は箱式石棺、土壙（短辺側に各々緑泥片岩を立てる）であることから、古墳群内でも傑出していることが注目される。この他、北丘陵の北側には琴塚（県史跡延岡古墳群第10号）と呼ばれる小丘陵があり、緑泥片岩製の箱式石棺６基が確認され、直刀、鉄鏃、勾玉、丸玉、小玉、須恵器などが出土している。また、丘陵縁辺部からは、横穴墓（県史跡延岡古墳群第7~9.11号墳）が検出されるなど、本地区の墳墓群はバラエティに富んだ埋葬形態が見受けられる。

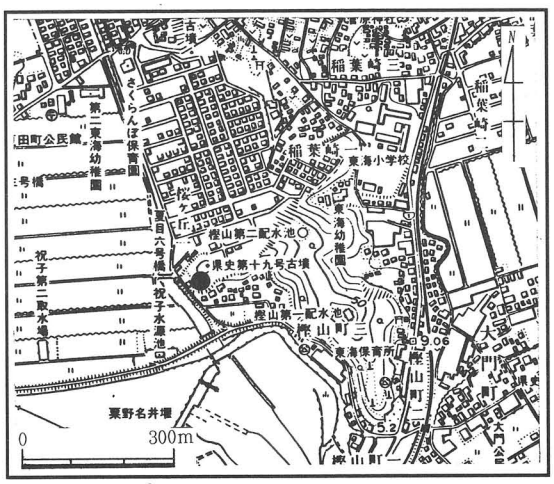
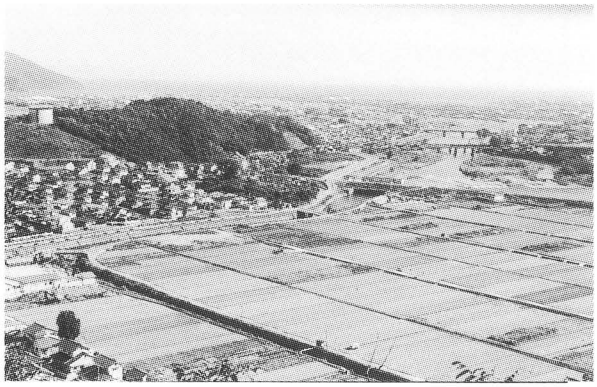


Fig.23　樫山遺跡位置図（1/15,000）


PL.12　樫山遺跡遠景

本遺跡が立地する南丘陵は、昭和40年代の宅地開発事業によって主要部が削平を受けているものの、尾根の一部に上水道の配水池が２カ所ある以外は概ね自然地形が残っている。本遺跡は、当丘陵から西側に派生する尾根筋先端部の標高約10mの地点に立地し、西側の眼下には祝子川によって形成された平野部を一望することができ、北東に隣接して県史跡延岡古墳群第19号墳が存在する。

このようなことから、街路公園課との道路設計協議において本地区の重要性や県指定史跡の保護の観点の理解を求め、出来るだけ丘陵部分の削平を少なくすることとし、やむを得ず削平を受ける部分において市教委による発掘調査を実施することとなった。

⑵調査の概要

調査は、開墾により造成された平坦部に３カ所（１・４・５トレンチ）と、自然地形が残る丘陵斜面の箱式石棺１基と２カ所（２・３トレンチ）を設定して行った。調査の結果、１トレンチは、山側の約２／３から地山岩質土を検出し、大半が開墾による地山削平面であることが確認された。４トレンチは、旧表土面は削平を受けていたがその下層は緩やかな土層の堆積状況となっており、遺物包含層が確認され、弥生後期～古墳初頭の土器類を検出したほかピット群が確認された。５トレンチは、旧表土面

PL. 13　桴山遺跡調査区近景

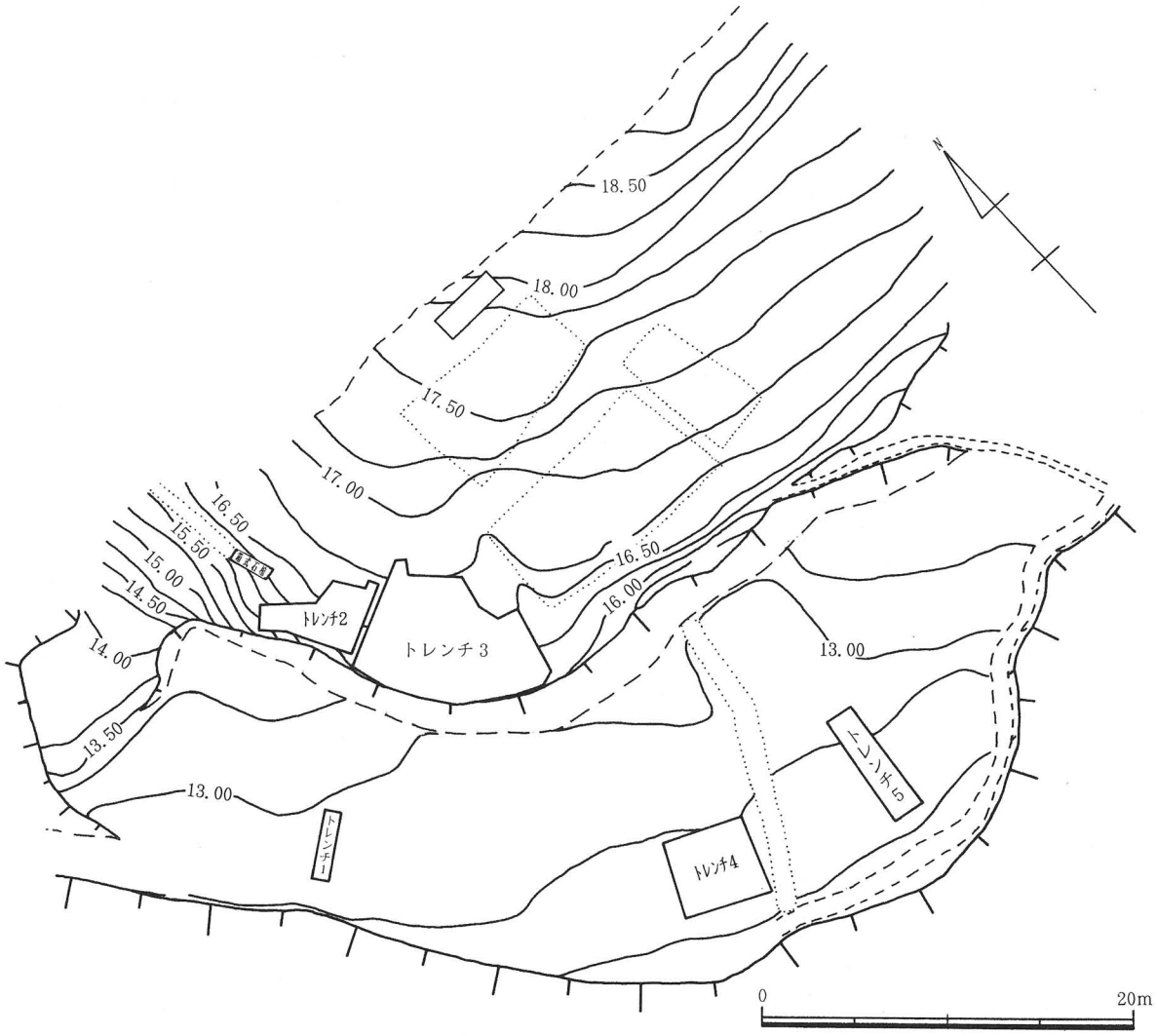


Fig. 24　桴山遺跡調査区配置図（1/400）

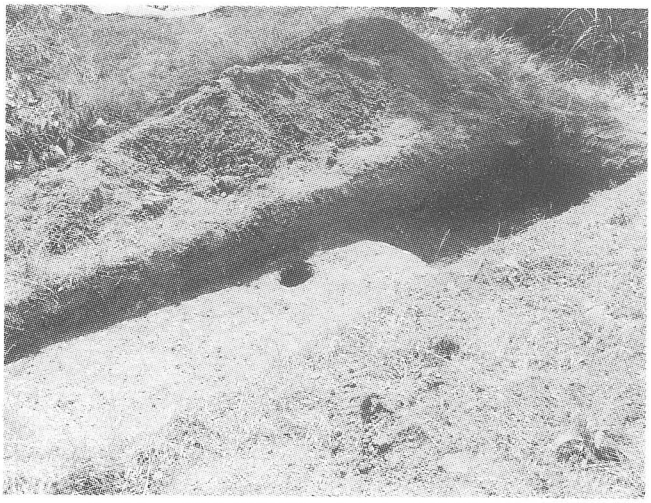
が一部残っており、石鏃２点が検出されたほか、４トレンチと同層の遺物包含層が確認された。２トレンチは、表土除去後、地山粘質土の互層が確認され１掘り方は明瞭ではなかったものの僅かに楕円形状になる土壙を検出し、埋土の周辺部から管玉１点が出土した。すぐ北東隣接地からは、ほぼ南北方向に向いた箱式石棺１基を検出した。これは、調査前から一部露出していたもので、石材は緑泥片岩を使用し良好に残存しているように思われたが、検出された板石の西側がほぼ直線状に並んでいることから、開墾の際に蓋石と西側の側石が外され、その影響で東側の側石が内側に倒れ込んでいる状態ではないかと推察される。なお、共伴遺物は全く見受けられなかった。設定した表土直下から４・５トレンチと同層とみられる遺物包含層が確認され、弥生土器や土師器の破片が多く検出され、地山岩質土面において溝状遺構やピット群が確認された。

⑶検出遺構

箱式石棺を１基確認した他、２トレンチから土壙１基を検出した。３・４・５トレンチからは、ピット群、３トレンチからは溝状遺構を併せて検出した。

⑷出土遺物

２・３・４・５トレンチから遺物包含層を検出し、弥生後期～古墳初頭の土器類（Fig31. Fig32に一括資料として掲載）が出土した他、旧表土より縄文早期の石鏃２点（Fig31. No.11～12）を検出した。また、２トレンチの土壙付近から管玉１点（Fig32 No.28)を検出した。



PL.14　樫山遺跡第１トレンチ遺構検出状況

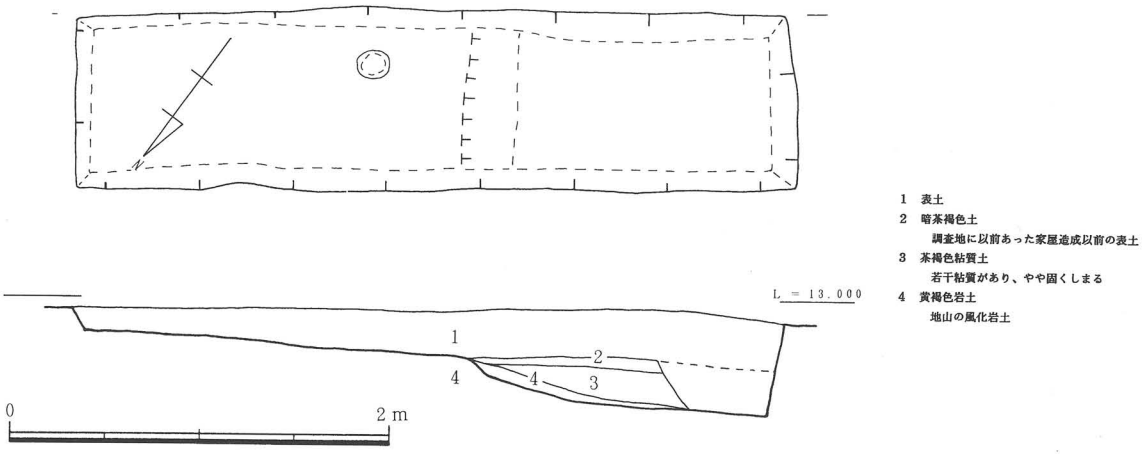


Fig.25　樫山遺跡第１トレンチ実測図（1/40）

PL. 15　俀山遺跡箱式石棺検出状況

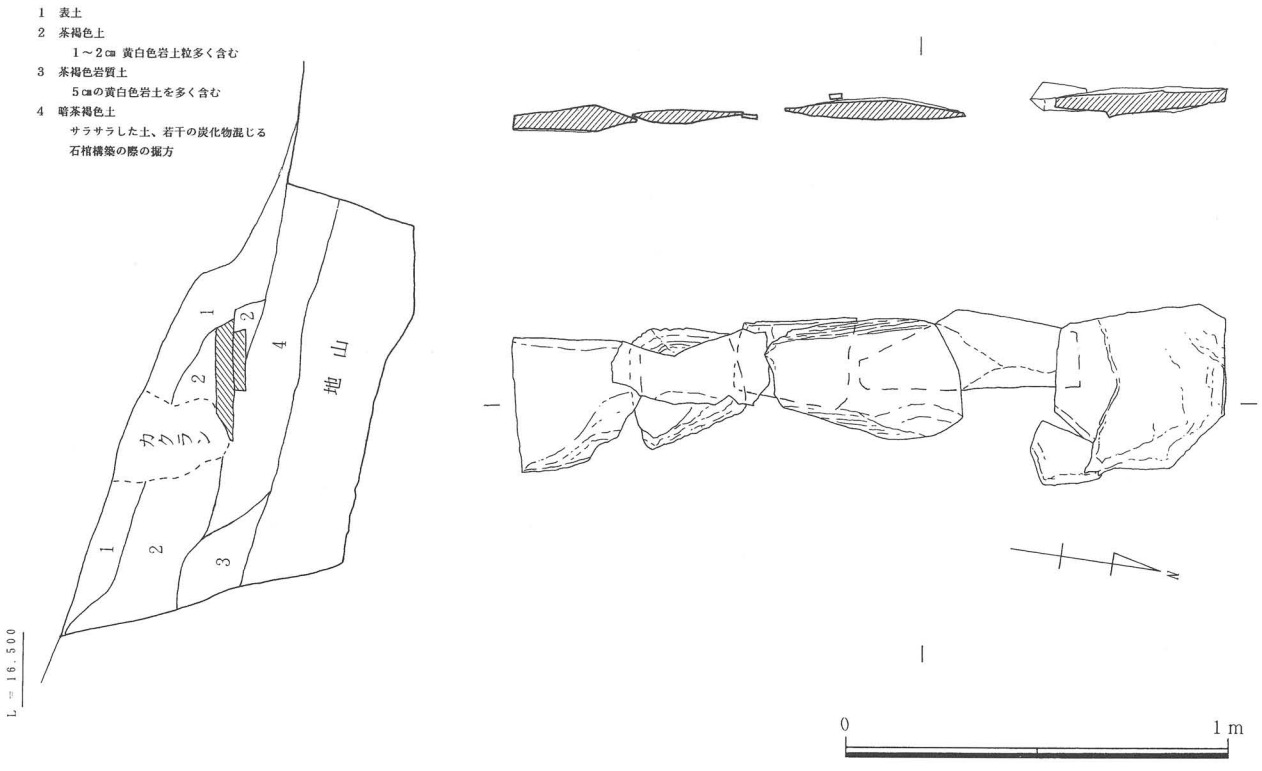
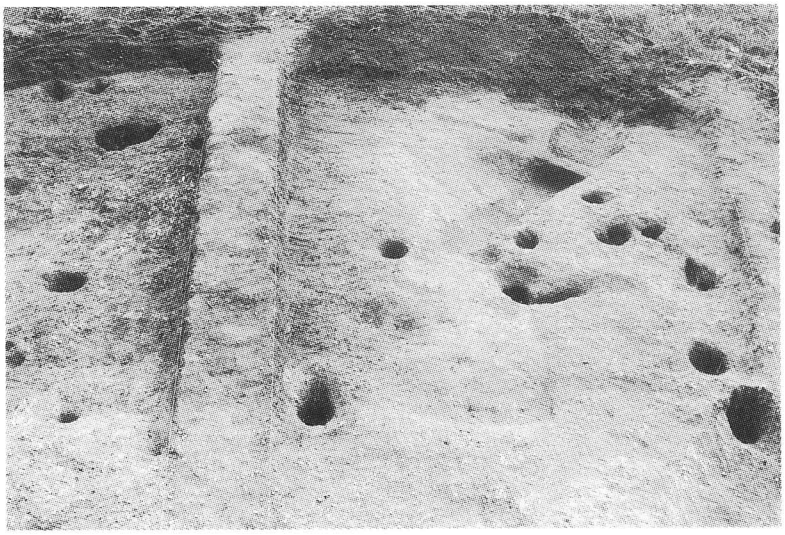


Fig26.　俀山遺跡箱式石棺実測図（1/20）

⑸まとめ

今回の調査は、面積的に限定されるものであったが、管玉を伴う可能性がある土壙や、弥生後期～古墳初頭にかけての遺物包含層が確認され、これまで未解明な点が多い樫山古墳群成立以前の状況を垣間見ることができた。また、その遺物量から同地区には竪穴住居跡などの遺構群の存在が考えられ、墳墓や集落が立地する丘陵として、当遺跡が立地する樫山丘陵の重要性が改めて認識させられる結果となったといえよう。



PL. 16　樫山遺跡第３トレンチ　遺構検出状況

Fig. 27　樫山遺跡第３トレンチ遺構平面図（1/80）

PL. 17　桴山遺跡第 2 トレンチ土壙検出状況

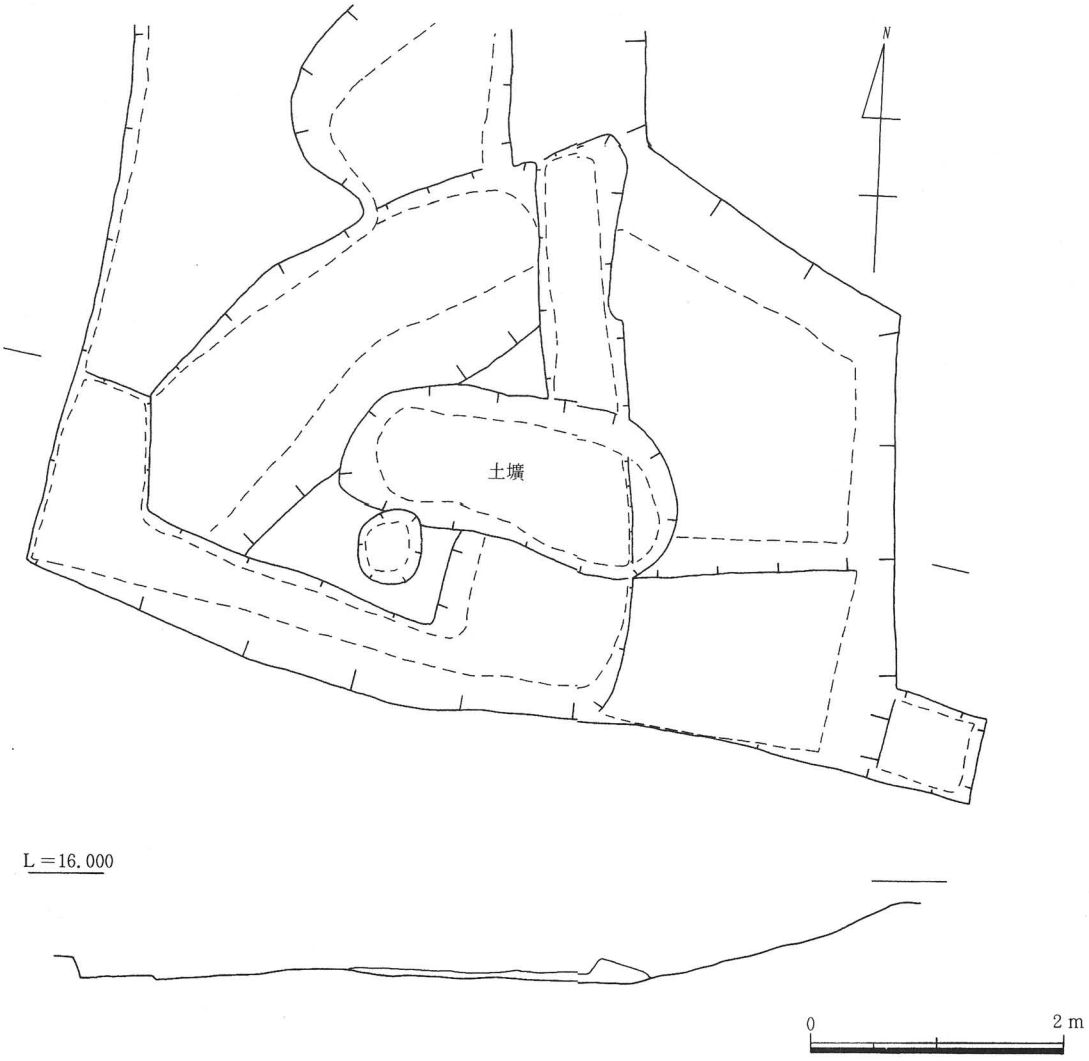


Fig. 28　桴山遺跡第 2 トレンチ土壙実測図（1/60）

PL. 18　樫山遺跡第 4 トレンチ遺構検出状況

Fig. 29　樫山遺跡第 4 トレンチ遺構平面図（1/40）

PL.19　樫山遺跡第5トレンチ遺構検出状況

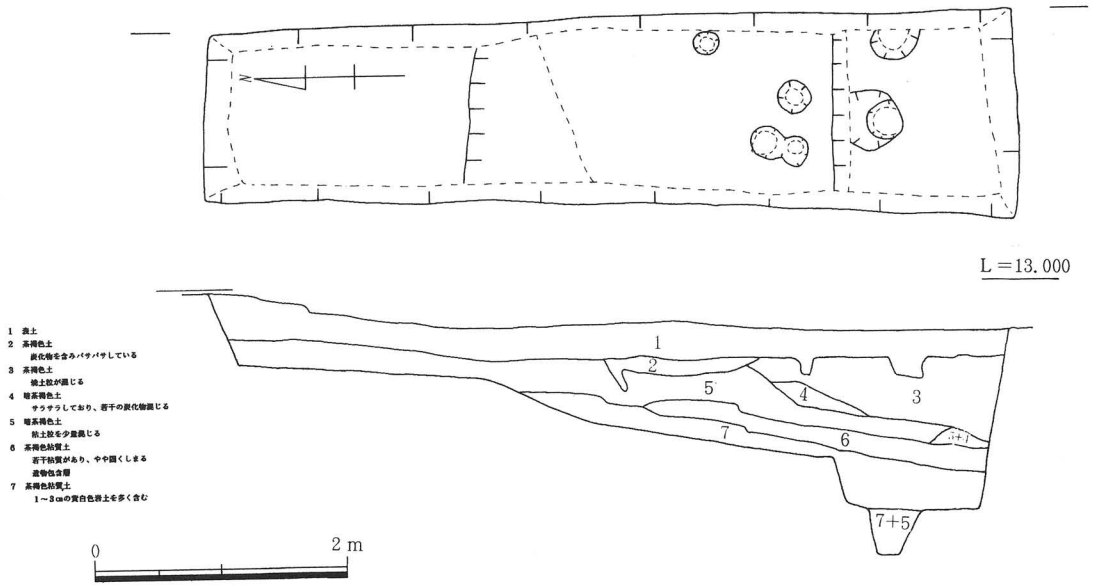


Fig.30　樫山遺跡第6トレンチ実測図（1/60）

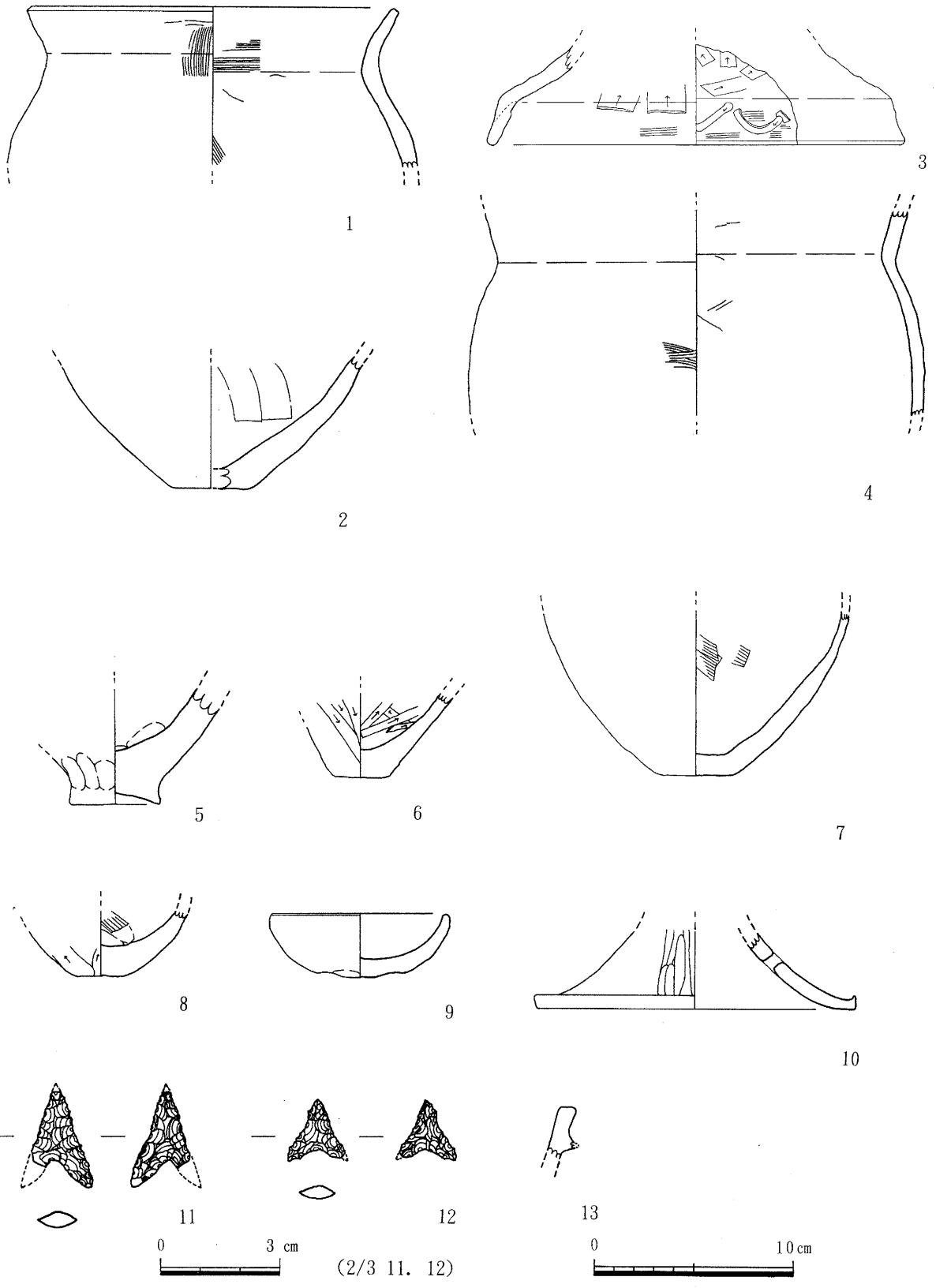


Fig. 31　樫山遺跡出土遺物実測図(1/3, 2/3)

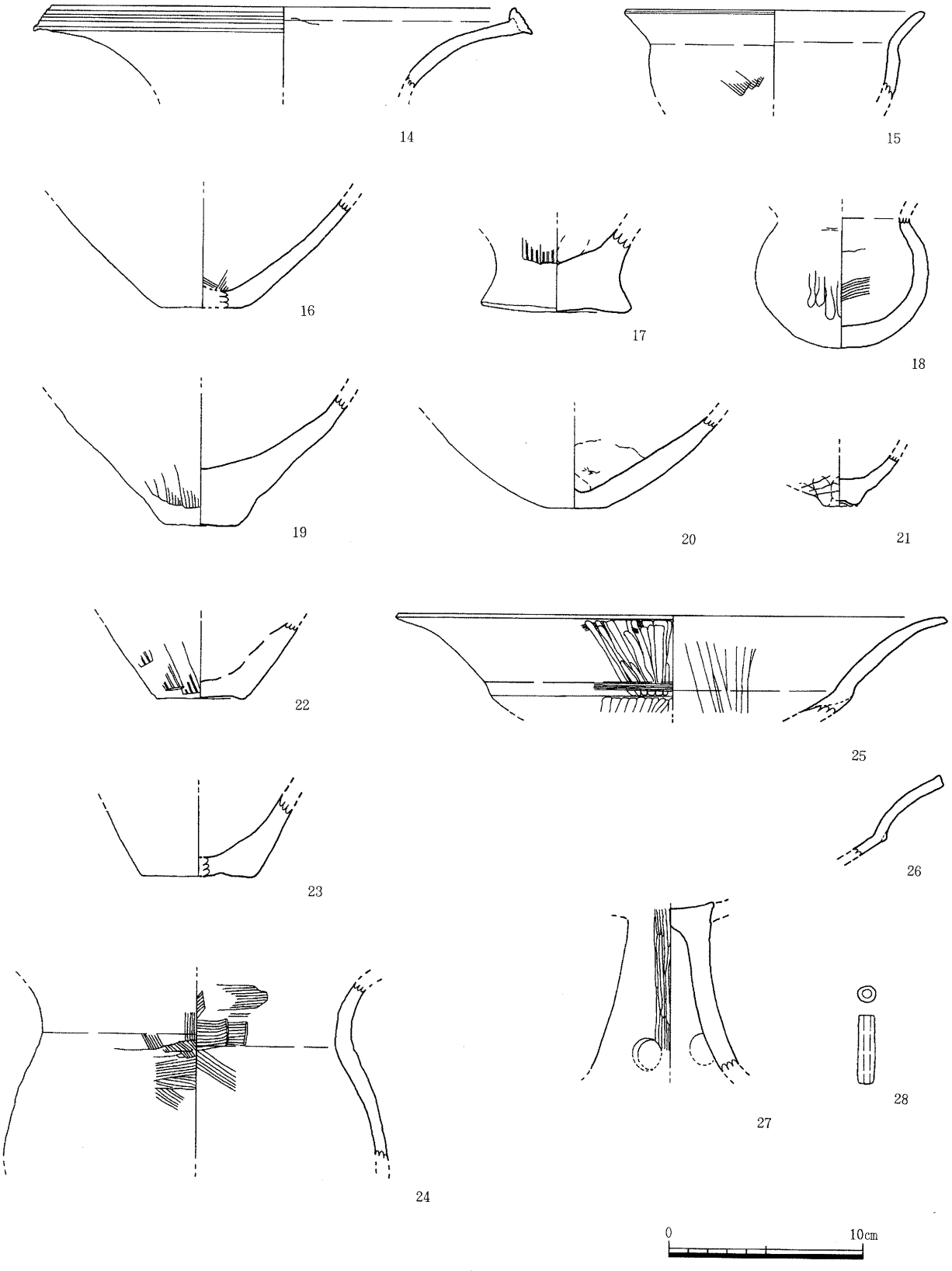
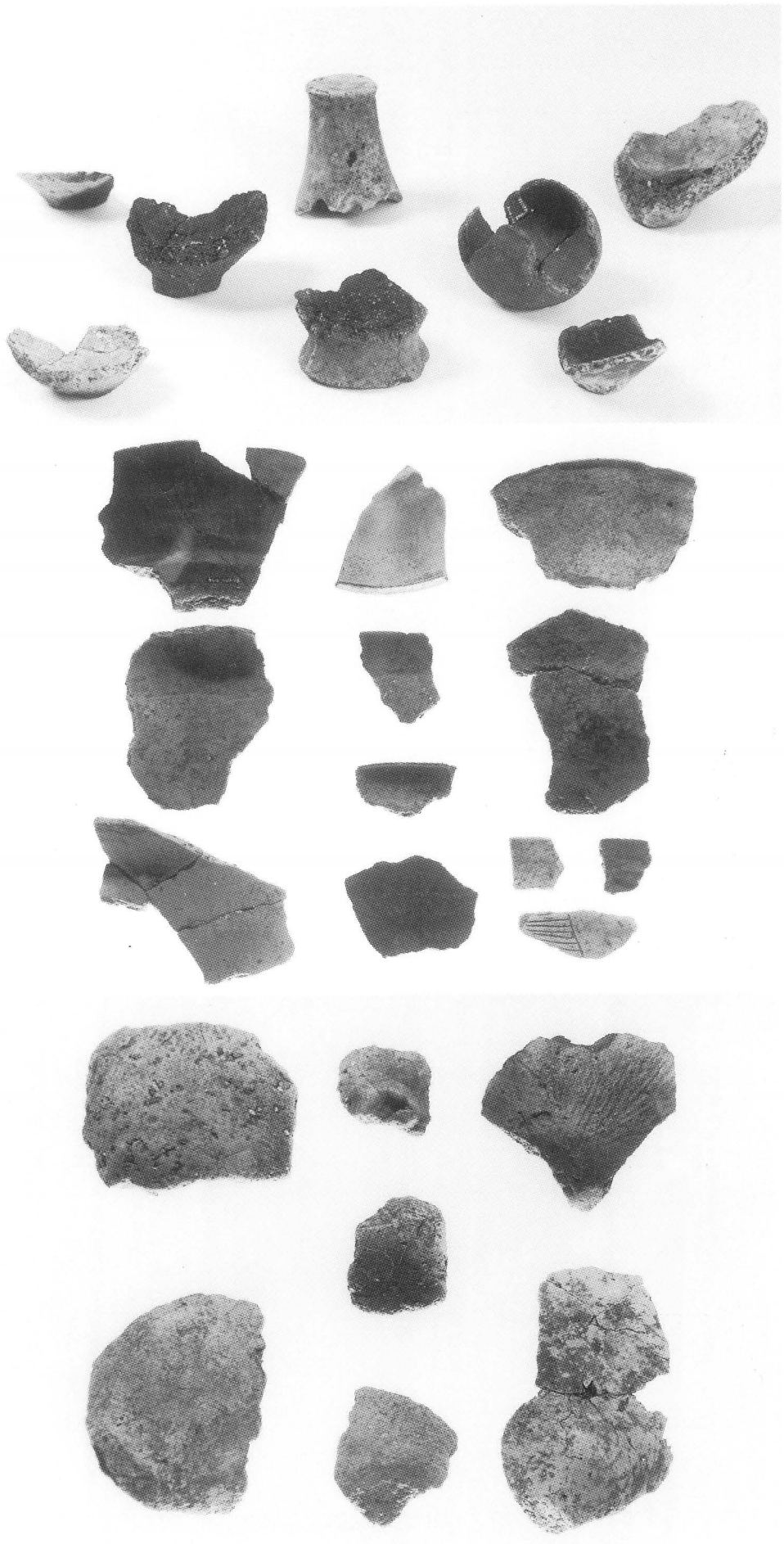


Fig. 32　樫山遺跡出土遺物実測図（1/3）



PL. 20　樫山遺跡出土遺物

8．延岡城第１４次（牧水広場）

所 在 地	延岡市東本小路１６８	調査面積	３７．３㎡
調査原因	公園整備（植栽）	担 当 者	尾方・高浦
調査期間	971208～971215	処　　置	保　存

(1)位置と環境

当遺跡は、県内を代表する近世城郭である延岡城内の一角にあたる。延岡城は市の中心部に位置し、五ケ瀬川・大瀬川を天然の外堀として、その中洲にある標高約53.4mの独立丘陵という天然の要害を選んで築城されている。築城は当時の藩主高橋元種によって、1601年から３年かけて行われている。

調査地点は北大手門を登り、三ノ丸へ向かう途中の、南から北へ延びる帯曲輪で、絵図史料からは建物等の記載は確認できない。

現在は、郷土の歌人「若山牧水」の記念碑が建立されており、牧水広場として親しまれている。

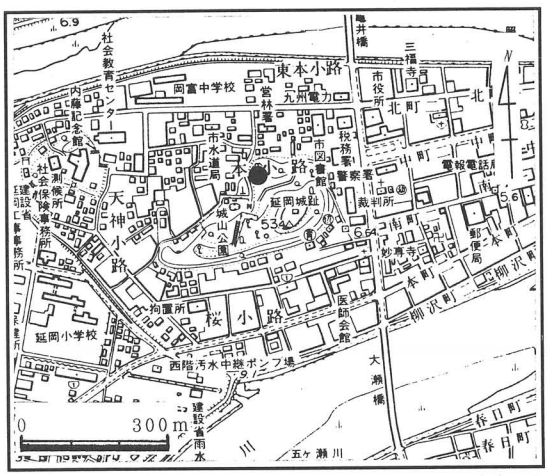


Fig.33　延岡城第14次（牧水広場）位置図
(1/15,000)

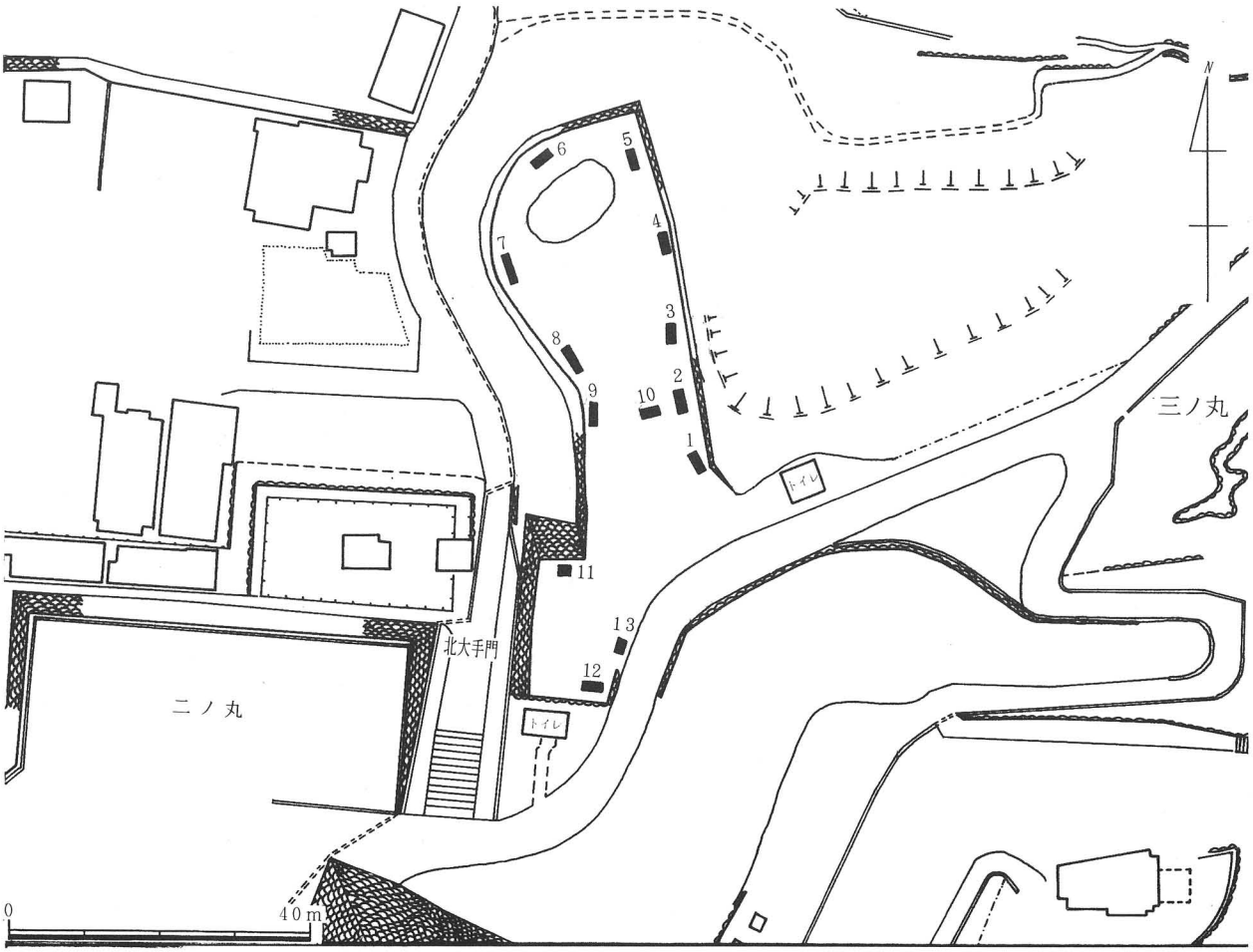


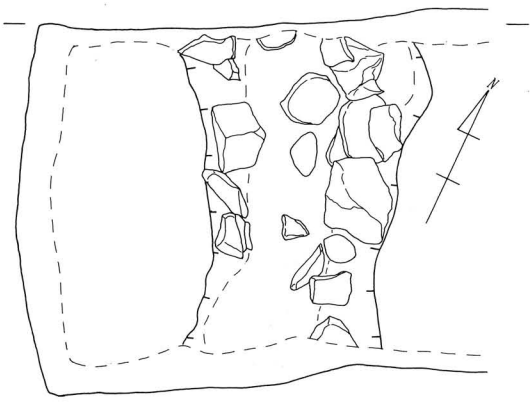
Fig.34　延岡城第14次（牧水広場）調査区配置図（1/1,000）

⑵調査の概要

発掘調査は土層観察と遺構検出を目的とし、トレンチ調査法による確認調査を採用した。植栽予定地13箇所に、トレンチを設定し調査を行った。

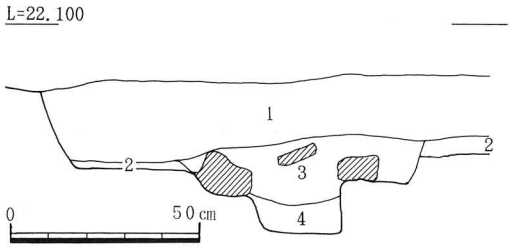
トレンチ１～10から、中近世の遺物包含層が検出され、瓦片、陶磁器片、土師器片の遺物が出土している。包含層の下からは、遺構面が検出されている。

トレンチ11～13から、地山が検出されたが、その他のトレンチからは検出されなかった。このことから調査地は、地山整形後埋土によって造成された曲輪であることが確認できた。



⑶検 出 遺 構

排水溝跡　トレンチ６より検出された。拳大程の礫を並べた簡易的なもので、幅50㎝、深さ25㎝を測る。遺構の全容については、植栽予定地外へ伸びていくため調査を行っていない。



１層　褐色土　２層　黄褐色砂岩土（整地層
３層　淡黄褐色土 ４層　暗黄褐色土

Fig. 35　延岡城第14次（牧水広場）排水溝実測I
(1/

⑷出 土 遺 物

瓦片295 点、陶磁器片36点、土師器片36点、鉄釘５点が出土している。瓦片は殆どが平瓦であった。

⑸ま　と　め

今回の調査により、調査地の曲輪には絵図に記載のない遺構の存在が考えられる。

現在延岡城は、指定史跡に向け整備中であるため植栽予定地外の調査は行っていない。今後の整備を進めていくなかで、当地の発掘調査は必要であろう。

尚、整備（植栽）は見送られることとなった。

PL. 21　延岡城第14次（牧水広場）排水溝
検出状況

9．延岡城第１５次（林友寮）

所在地	延岡市東本小路１９８	調査面積	１４．３㎡
調査原因	急傾斜工事	担当者	尾方・高浦
調査期間	971216～971219	処置	調査後破壊

⑴位置と環境

当遺跡は、県内を代表する近世城郭である延岡城から西に派生する尾根上に位置する。以前は連続した丘陵だったことが伺えるが、現在は独立した丘陵となっている。確認されている最も古い延岡城絵図（1670～1683）からも、独立した丘陵であることが確認できる。

調査地点はこの丘陵の北端である。標高は約15.5ｍを測り、そこから西ノ丸を望める。絵図資料からは建物等の記載は確認できない。

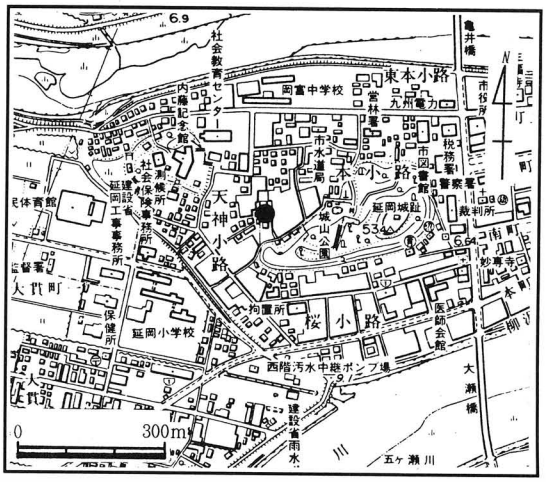


Fig.36　延岡城第15次（林友寮）位置図（1/15,000）

⑵調査の概要

発掘調査は工事予定地が狭いため、全面発掘調査を行った。調査地は以前開墾しており、その痕跡が確認できた。表土約15㎝程掘り下げると、地山が検出された。

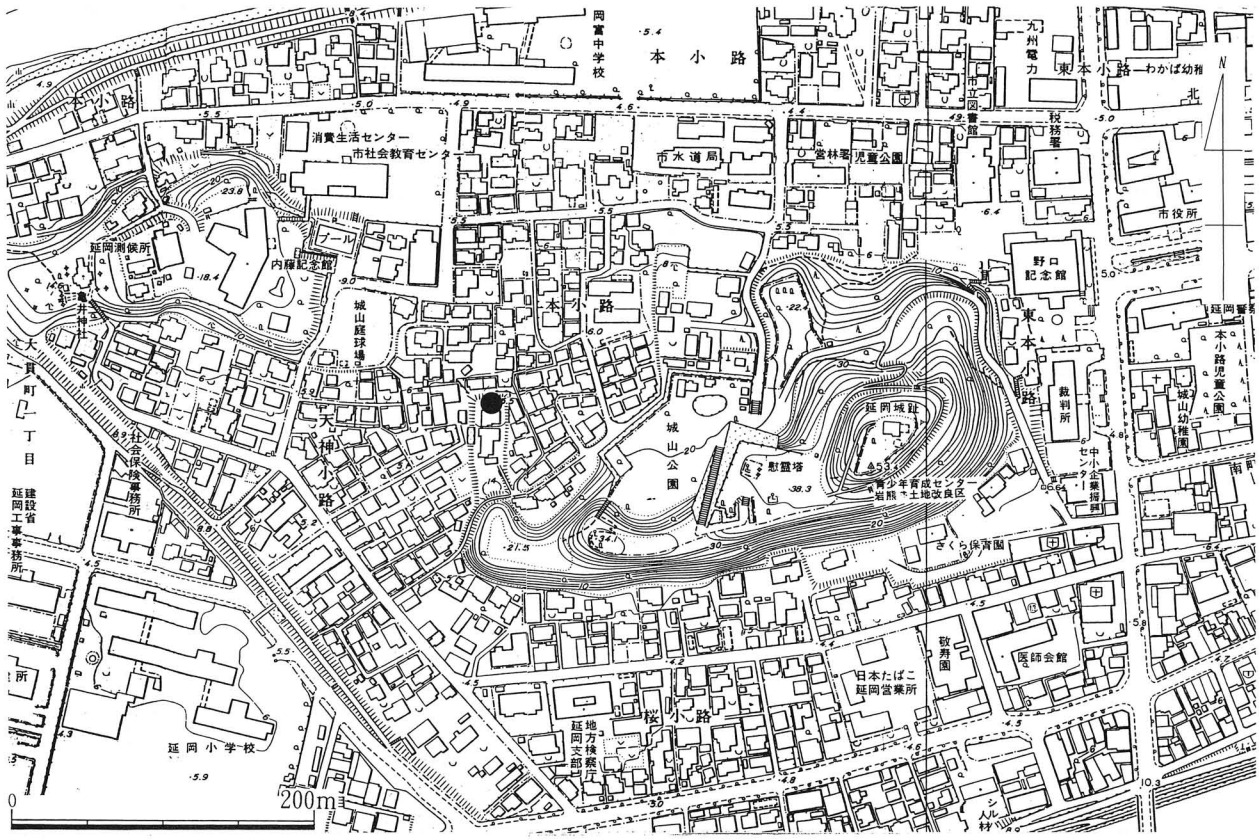


Fig.37　延岡城第15次（林友寮）調査区配置図（1/5,000）

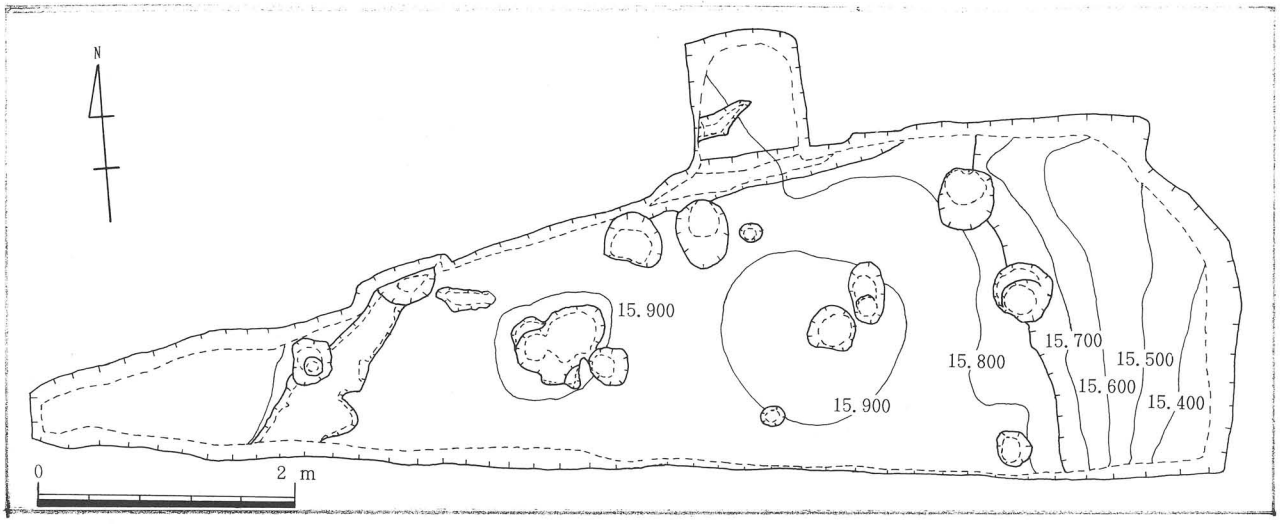


Fig. 38　延岡城第15次（林友寮）遺構平面図（1/60）

⑶検 出 遺 構

柱　　穴　調査により10個の柱穴が検出された。建物等の復原については、調査面積が狭いため、今後の調査に期待したい。

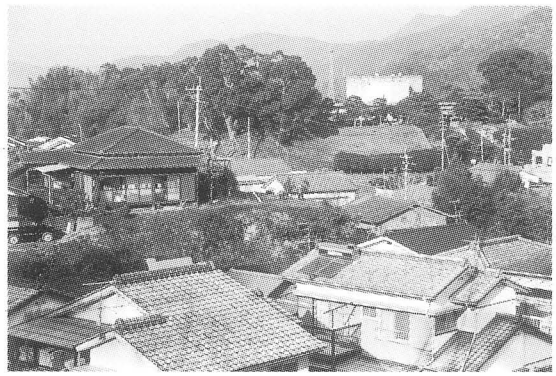
⑷出 土 遺 物

遺物は出土していない。

⑸ま　と　め

今回は調査区が非常に狭く、また遺物も出土していないため、検出された柱穴の機能・時期については不明確である。今後の周辺地域での調査に期待したい。

また、調査地は現在進めている延岡城指定の範囲内である。しかし、台風19号に伴う大雨により地盤が緩み、崩落の危険が確認され、崖下に民家があることから緊急に調査を行い、記録保存という形を採用した。



PL. 22　延岡城第15次（林友寮）遠景

PL. 23　延岡城第15次（林友寮）
遺構検出状況

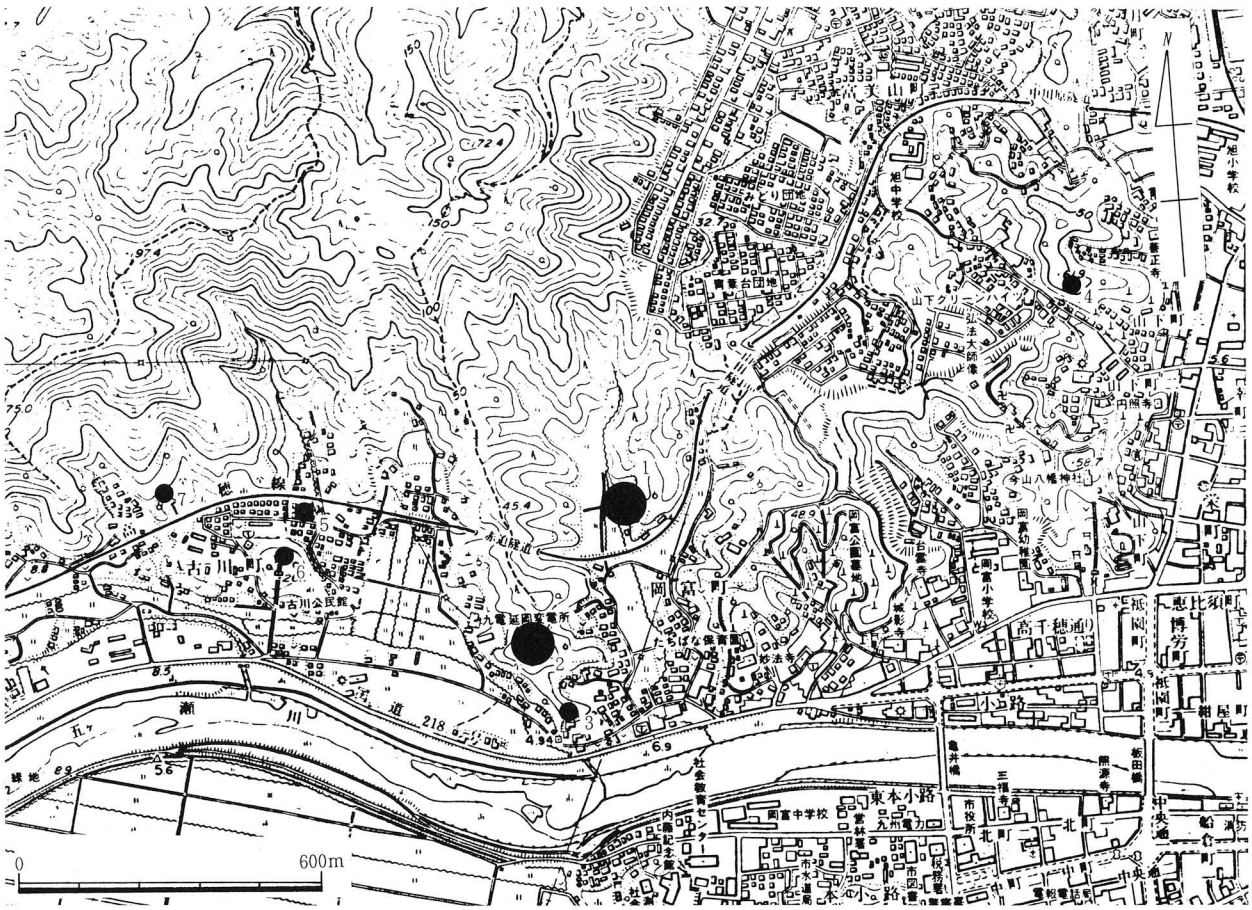
１０．上多々良遺跡

所 在 地	延岡市岡富町９５１－２外	調査面積	９７　㎡
調査原因	区画整理事業	担 当 者	尾方・高浦
調査期間	980107～980203	処　　置	協　議

⑴位置と環境

当遺跡は、延岡市街地から西方に約1.4 kmに位置する。ここは五ケ瀬川北岸に連なる、標高約180 mの岡富山から南に派生する舌状の丘陵と、その谷に広がる水田である。ここ岡富町は、五ケ瀬川の氾濫による被害に悩まされてきた地である。

当遺跡から西に0.6 kmには、伊勢ノ前古墳（古川古墳）が所在している。調査により阿蘇溶結凝灰岩の石棺から、約19cmの非常に大きな鉄鏃４本と短甲（三角板革綴）の一部が出土している。岡富山の南には横穴墓の県史跡延岡古墳34号墳が所在し、勾玉２点が出土している。また、岡富山から北に延びる丘陵上には、平成７年度に調査した上ノ坊古墳が所在しており、調査により直径約20m、木棺を主体部とする円墳から三角板革綴短甲、鉄鏃、鉄剣、直刀の武具および、鋤先、鉄鎌、やりがんなの農工具が数多く出土している。この他、上多々良箱式石棺群、古川窯跡等の遺跡が点在しており、古墳時代の遺跡が数多く確認されている。



１．上多々良遺跡　　２．上多々良箱式石棺群　　３．延岡古墳34号墳　　４．上ノ坊古墳
５．伊勢ノ前（古川）古墳　６．赤迫遺跡　　７．古川窯跡

Fig.39　上多々良遺跡位置図および周辺遺跡分布図（1/15,000）

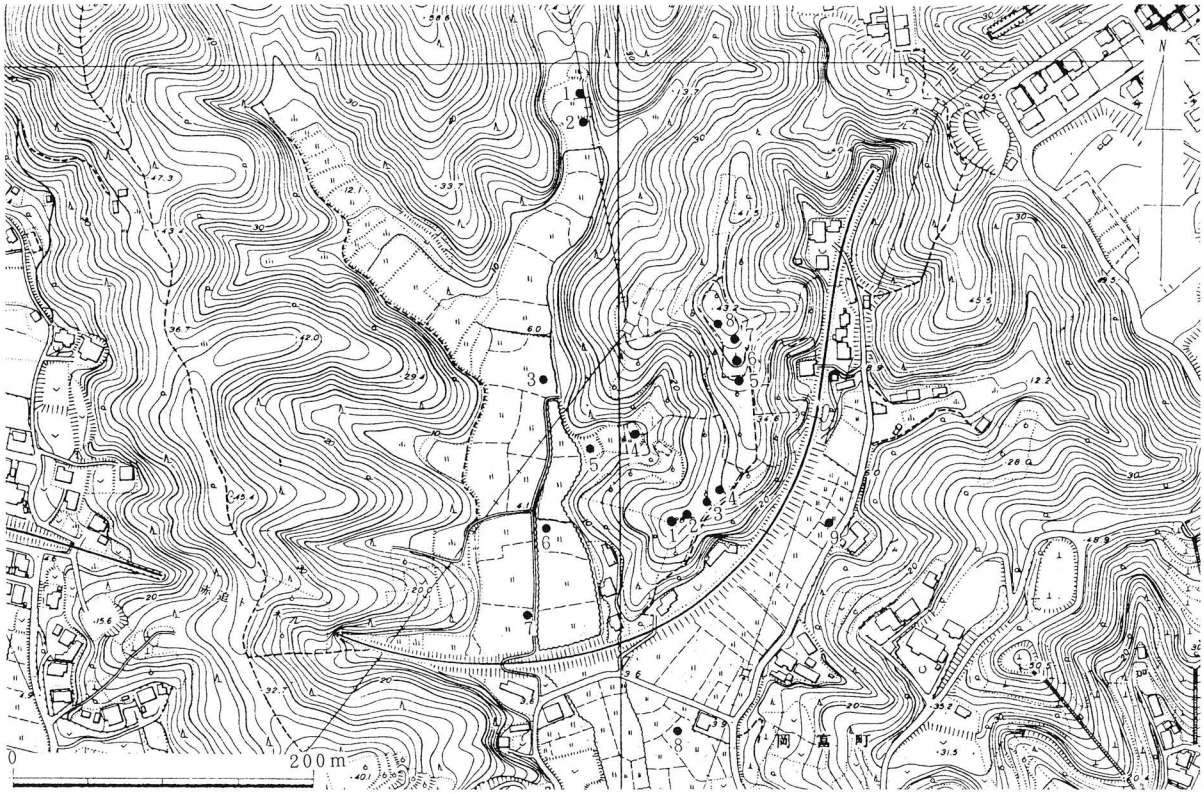


Fig.40　上多々良遺跡調査区配置図（1/5,000）

⑵調査の概要

発掘調査は低地に営まれている水田10箇所と、丘陵尾根筋に８箇所のトレンチを設定し、土層観察と遺構検出に主眼をおき実施した。また、窯跡調査のため、丘陵裾部を踏査した。

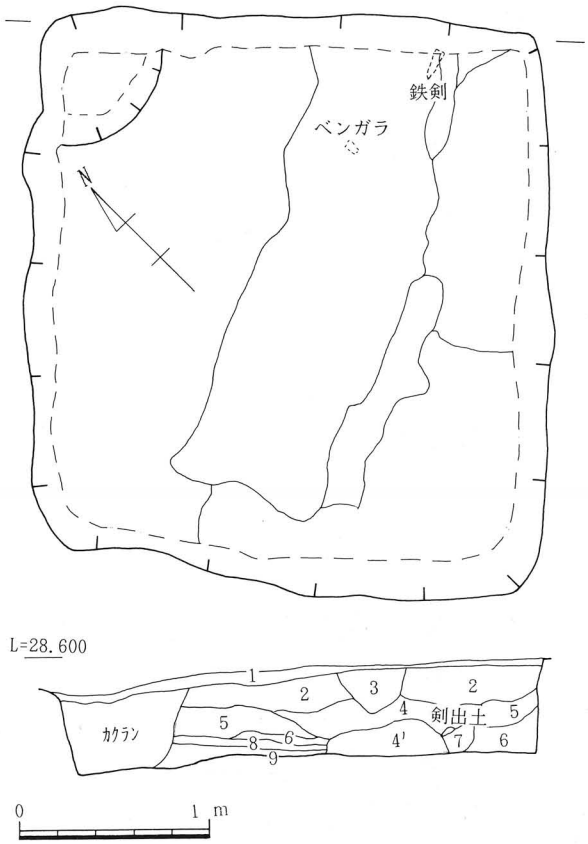
水田に設定したトレンチのほとんどが、開墾によりつくられた水田であった。現地の聞き取り調査からも、これを裏付ける結果を得た。しかし、調査地に跨がる高千穂鉄道以南に設定したトレンチ８からは埋土は検出されず、良好な粘土層が検出され、土師器が１点出土している。調査を行った９箇所は、水田跡等の確認のため、プラントオパール分析を行った。

丘陵尾根筋に設定したトレンチ２～８からは、遺構・遺物の検出はできなかった。しかし丘陵南端のマウンドに設定したトレンチ１から、鉄剣が出土した。トレンチ拡張後、土層、付近を精査したところ、版築および堀り込みが確認され、一部ベンガラが検出された。

丘陵裾部の踏査からは、窯跡の確認はできなかった。

⑶検 出 遺 構

丘陵南端から、円墳１基が確認された。



1層　表土　　2層　暗黄白色粘質土　　3層　淡色褐色土（カクラン）

4層　乳白色岩質粘土層（２～３cmの角レキを含む）　4'層　4層と同質だが角レキが少ない

5層　黄白色粘質土　　6層　淡黄白色粘質土（0.5～２cmの角レキを含む）

7層　赤黄白色粘質土（４～５cmの角レキを多量に含む）

8層　暗褐色粘質土（粒子が細かく、粘性が強い、旧表土）

9層　暗黄褐色粘質土（粒子が細かく粘性が強い）

Fig.41　上多々良遺跡主体部検出状況および土層断面図（1

⑷出 土 遺 物

水田に設定したトレンチ８から、土師器１点が出土している。また確認された円墳から、鉄剣が１点出土している。また、来年度調査予定地を踏査したところ、須恵器片１点の表採を得た。

１は土師器の台付き碗である。調整は内外面ともナデである。色調は淡灰白色を呈し、焼成はやや不良である。胎土は１㎜程の砂粒を含む。

２は鉄剣である。一部木片が遺存している。幅は３㎝を測る。

３は須恵器の大甕である。外面に３条の沈線および青海波、内面は円弧当て具痕を有す。内面は風化が著しい。色調は外面が暗青灰褐色、内面は灰黄褐色を呈す。焼成、胎土とも良好である。

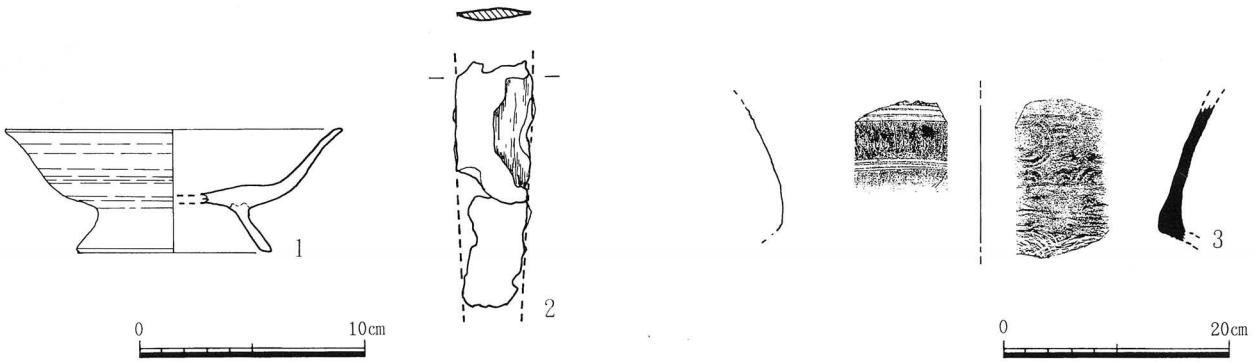
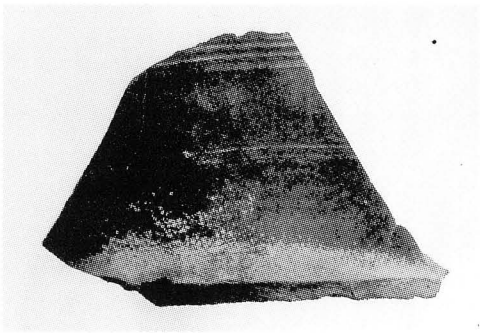


Fig. 42　上多々良遺跡出土遺物実測図(1/3, 2/3)

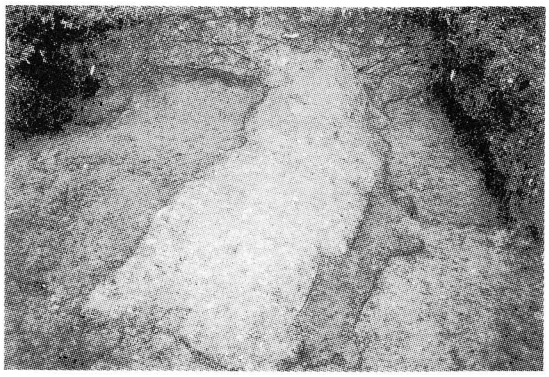
⑸ま　と　め

今回確認された円墳の主体部は、規模、形状等から木棺直葬である可能性が強い。また同様に、区画整理事業が計画されている隣接の丘陵部においても、分布調査により８～９基のマウンドが確認されており、古墳である可能性が考えられる。

このことから、五ケ瀬川下流域の古墳の分布、変遷を解明する上で、非常に重要な遺跡であると考えられる。また、水田から遺物が出土しており、プラントオパール分析の結果をふまえ、丘陵部および水田については関係課所との十分な協議が必要である。



PL. 25　上多々良遺跡出土遺物



PL. 24　上多々良遺跡主体部検出状況

報告書抄録

ふりがな	いいじま　たけした　はまのやま　まつおじょう　ひのでまち　ひのぼり　かしやま　のべおかじょう　のべおかじょう　かみたたら
書名	飯島遺跡（第2次）　竹下遺跡　浜ノ山遺跡　松尾城跡（第1次）　日の出町遺跡　肥登遺跡（第2次）　樫山遺跡　延岡城第14次　延岡城第15次　上多々良遺跡
副書名	平成９年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	延岡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第１９集
著者名	山田　聡、尾方農一、高浦　哲
編集機関	延岡市教育委員会
所在地	宮崎県延岡市東本小路２－１
発行年月日	１９９８年３月３１日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
いいじま 飯島遺跡 （第２次）	のべおかし　のたまち 延岡市野田町 いいじま 字飯島	452033	4115	３２° ３３′ ３７″	１３１° ３９′ １５″	1997 0317 ～ 1997 0324	６５㎡	区画整理
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
散布地	古代	無	無					

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
たけした 竹下遺跡	のべおかし　はままち 延岡市浜町 たけした 字竹下	452033		３２° ３３′ ２７″	１３１° ４０′ ５４″	1997 0409 ～ 1997 0411	15.1 ㎡	大規模小売店舗建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
散布地	古代	無	無					

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
はまのやま 浜ノ山遺跡	のべおかし　みどりがおか 延岡市緑ヶ丘 はまのやま 字浜ノ山	452033		３２° ３２′ ４１″	１３１° ４１′ ０４″	1997 0416	12.8 ㎡	国家公務員住宅建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
散布地	縄文	無	無					

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
まつおじょう 松尾城跡 （第１次）	のべおかし　まつやままち 延岡市松山町 まつやま 字松山	452033	4071	３２° ３４′ ５０″	１３１° ３７′ ５９″	1997 0530 ～ 1997 0620	16.9 ㎡	急傾斜工事
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
城郭	中世		土錘・磨製石包丁 土師器・鉄滓・陶磁器 青銅製品					

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ひのでまち 日の出町遺跡	のべおかし　ひのでちまち 延岡市日の出町 ひので 字日の出	452033	3007	３２° ３５′ １７″	１３１° ４０′ ３３″	1997 0731 ～ 1997 0801	８㎡	ビル建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
散布地	弥生	無	無					

ひのぼり 肥登遺跡 （第２次）	のべおかし　のじまち 延岡市野地町 ひのぼり 字肥登	452033	4082外	３２° ３４′ ２５″	１３１° ３８′ ５６″	1998 1006 ～ 1998 1020	37.7 ㎡	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
散布地	古墳	近世墓	陶磁器、古銭、剝片					

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
樫山遺跡（かしやま）	延岡市樫山町（のべおかし かしやままち） 字樫山（かしやま）	452033	2019	32°36′06″	131°40′35″	1997 1021 ～ 1997 1113	103.5 ㎡	都市計画 街路工事
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	弥生～古墳	土壙墓		石鏃、弥生土器、管玉		県史跡隣接地		

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
延岡城第14次（牧水広場）（のべおかじょう）	延岡市東本小路（のべおかし ひがしほんこうじ） 字東本小路（ひがしほんこうじ）	452033	3018	32°34′41″	131°39′53″	1997 1208 ～ 1997 1215	37.3 ㎡	公園整備 （植栽）
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
城郭	近世	排水溝		土師器、瓦、陶磁器 鉄釘				

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
延岡城第15次（林友寮）（のべおかじょう）	延岡市本小路（のべおかし ほんこうじ） 字本小路（ほんこうじ）	452033	3018	32°34′38″	131°39′46″	1997 1216 ～ 1997 1219	14.3 ㎡	急傾斜工事
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
城郭	近世	柱穴		無				

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
上多々良遺跡（かみたたら）	延岡市岡富町（のべおかし おかとみまち） 字上多々良（かみたたら）	452033	3012外	32°35′10″	131°39′36″	1998 0107 ～ 1998 0203	97 ㎡	区画整理
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	古墳	円墳1基		土師器、須恵器、鉄剣				